



取付説明書

本書は取付け作業前・ご使用前に必ずお読みください。

取付けは必ず専門業者に依頼してください。

お読みになった後は、大切に保管してください。

本製品は、下記に示す車両のみ取付け可能です。

万が一お車と本製品の型式等が異なる場合には、速やかにお買い上げの販売店にご連絡ください。

商 品 名	GTスーパーチャージャーシステム
用 途	自動車専用部品
コ ー ド No.	12001-AT005
取付説明書品番	E04215-T63012-00 Ver.3-3.03
メーカー車種	LEXUS LS460 (DBA-USF40)
対 応 年 式	2006/09～2009/08
エンジン型式	1UR-FSE

※適合車両の年式は 2012 年 11 月現在のものです。



キット装着図



キット装着図(カバー類取外し)

改訂の記録

改訂No.	日付	記載変更内容
3-3.01	2011/05	初版
3-3.03	2012/11	部品構成変更

備 考

・本製品を使用時のエンジン及び補機類等の破損については一切保証を致しません。

○本キット(12001-AT005)には、HKS GTスーパーチャージャー本体保証(以下 本体保証)が適用されます。

○本製品は専用サブコンピュータにてセッティング済みのため、下記指定部品との組合せで使用してください。

・指定部品以外の部品を使用した場合には、エンジンが破損する場合があります。

コンプリートキット指 定 部 品	
ECU	純正並びに純正データ
触媒付き エキゾーストマニホールド	HKSメタルキャタライザー (G65460-T43010-00/G65460-T43020-00:純正追加工)
第2触媒付中間パイプ	純正
マフラー	純正
スパークプラグ	HKS スーパーファイヤーレーシング M40iL/M45iL のいずれかに必ず交換
エンジンオイル	HKS エンジンオイル シリーズ 高温粘度 40 以上

○本製品を下記使用条件下にて使用した場合には、本体保証をお受けになることはできません。

保証対象外となる使用条件
エンジン最大回転数の引き上げ、またはプーリー変更により、インペラ回転数を指定回転数以上で使用した場合。(インペラ回転数 最大 100,000rpm)

○加工が必要な箇所

部品名	加工内容	材質	備考
バンパーレインフォースの 取付けブラケット	一部切除	アルミ	
バンパーレインフォース	φ9.1mm 穴開け加工及び ブラインドナット取付け	アルミ	
ECU BOX カバー	一部切除	PP 樹脂	
インナーフェンダー(左右)	一部切除	PP 樹脂	
ブレーキダクト	一部切除	PP 樹脂	2010年8月以降の 車両

○必要な特殊工具

工具名	備考
ハンドナッター(M6用)	推奨締結工具 POP社製 MN10A-S/L

○別途必要な部品等

品名	備考
スパークプラグ	HKS スーパーファイヤーレーシング M40iL または M45iL
ロングライフクーラント	約5L
はめ合い用嫌気性接着剤	LOCTITE 603 または 3M RT80J など
排気系ガスケット	トヨタ純正品 <ul style="list-style-type: none"> ・17173-38030 エキゾーストマニホールド トワー ヘッドガスケット (2個) ・90917-06078 エキゾーストパイプ ガスケット No.2 (2個) ・90917-06057 エキゾーストパイプ ガスケット (2個)
(推奨)エアクリーナー	トヨタ純正品を使用します。新品への交換を推奨します。 <ul style="list-style-type: none"> ・17801-38010-79 1個

目次

はじめに／本書・製品について／安全上の注意	3
パーツリスト	4
1. ノーマルパーツの取外し・移動	13
2. ノーマルパーツの移動・加工・変更	17
3. アイドラプリーブラケットの取付け	23
4. ウォーターインレットハウジングの取付け	27
5. トラクションオイルホースの取付け	31
6. GTS8550 の取付け	33
7. インタークーラー・フルードクーラーコアの取付け	41
8. インタークーラーパイプの取付け	47
9. ブローオフバルブの取付け	53
10. エアフロハーネス延長	54
11. エア配管の加工・接続	56
12. F-CON iS の取付け	59
13. ノーマルパーツの取付け	66
14. エアクリーナーボックスの取付け	67
15. トラクションフルードの注入とエンジン冷却水の注入	69
16. エンジン始動確認とトラクションフルード量の調整	70
17. ベルト張力の調整	72
18. エアクリーナダクトの取付け	72
19. 取付け後の確認	74
20. エンジンカバー・エンジンルームカバーの取付け	74
21. 1ヶ月点検の実施	76
22. 維持・管理	77
23. 故障と判断する前に	78
24. ベルトが切れてしまった場合	79

はじめに

この度は、HKS GTスーパーチャージャーシステムをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
本製品を安全にご使用いただき、機能を十分に発揮させるために本書をお読みください。
取付け終了後は本書に記載されている内容を守り、安全に使用してください。
本書は取付けを行なう前に必ず読み、よく理解した上で作業を行なってください。

本書・製品について

本書は本製品を安全に取付けていただき、お客様や第三者への危険や損害を未然に防止するため、守っていただきたい注意事項を示しています。

- 本製品は自動車専用部品です。用途外の使用は行なわないでください。
- お客様又は第三者が、本製品及び付属品を加工、誤使用したことにより受けた損害については当社は一切責任を負いかねます。
- 本製品は日本国内モデルノーマル車両への取付けを基準に開発されています。
- 本書は、予告なく改版することがありますので本製品と本書の整合をご確認ください。
- 本製品は付属品を含め、改良のため予告なく変更することがあります。

安全上の注意

本書では、下記のような記号を使用し、お客様への危険レベルを示しています。



警告

作業者又は使用者が、死亡又は重傷を負う恐れがある場合



注意

作業者又は使用者が、傷害を負う危険が想定される場合(人損)

拡大物損の発生が想定される場合

(拡大物損とは、当該製造物が原因で誘発された物的損害(例えば車両の破損及び焼損))

パーツリスト

No.1

連番	品番	品名	数量	備考
A 01		GTS8550	1	
A 02		S/C ガasket	2	
A 03		低頭キャップホルト M6 L=12	5	
A 04		S/C プーリー	1	φ90
A 05		フルードクーラーコア	1	
A 06		フルードタンク	1	
A 07		トラクションフルード	1	
A 08		ブラケット	2	使用しません
A 09		シリコンホース φ70×L20	2	
A 10		ホースバンド #48	2	
A 11		ホース Assy φ10	1	フィルター付き
A 12		ホース Assy φ8	1	L=3000
A 13		ホースクランプ φ10	3	
A 14		ホースクランプ φ8	4	
A 15		インタークーラー ブラケット No.1	1	
A 16		インタークーラー ブラケット No.2	1	
A 17		インタークーラー ブラケット No.3	1	
A 18		ブラインドナット M6	4	
A 19		インレットパイプ No.1	1	
A 20		インレットパイプ No.2	1	
A 21		インレットパイプ No.3	1	
A 22		アウトレットパイプ No.1	1	
A 23		アウトレットパイプ No.2	1	
A 24		アウトレットパイプ No.3	1	
A 25		アウトレットパイプ No.4	1	
A 26		サクシヨンプイプ	1	
A 27		S/C ブラケット No.1	1	
B 01		ステアリング ECU ブラケット No.1	1	
B 02		ステアリング ECU ブラケット No.2	1	
B 03		パイプブラケット No.1	1	
B 04		アースアダプター	1	
B 05		スペーサー D=20 d=6 t=10	1	
B 06		シリコンホース(紫) φ50 L=20	1	
B 07		シリコンホース(紫) φ65 L=20	4	
B 08		シリコンホース(紫) φ35 L=55	4	
B 09		シリコンホース(紫) φ60-φ65 L=70	1	
B 10		シリコンホース(紫) φ70 L=55	1	

パーツリスト

No.2

連番	品番	品名	数量	備考
B 11		シリコンホース(紫) φ80 L=70	2	
B 12		シリコンホース(紫) φ70-φ80 L=60 異径	1	
B 13		スペーサー D=20 d=10 t=5	9	
B 14		ワッシャー M4	5	
B 15		インシュレーターラバー	4	
B 16		リテーナー	4	
B 17		ワッシャ大径 M6	10	
B 18		ナットプレート M10	1	
B 19		六角ボルト M8 L=60	1	
B 20		キャップボルト M4 L=15	5	
B 21		キャップボルト M6 L=15	10	
B 22		キャップボルト M6 L=20	2	
B 23		キャップボルト M6 L=25	11	
B 24		キャップボルト M6 L=30	2	
B 25		キャップボルト M8 L=15	2	
B 26		キャップボルト M8 L=20	2	
B 27		キャップボルト M8 L=25	10	
B 28		キャップボルト M8 L=30	2	
B 29		キャップボルト M8 L=40	2	
B 30		キャップボルト M8 L=60	2	
B 31		キャップボルト M8 L=65	1	
B 32		キャップボルト M10 P1.5 L=20	1	
B 33		キャップボルト M10 P1.25 L=35	1	
B 34		キャップボルト M10 P1.5 L=35	1	
B 35		キャップボルト M10 P1.25 L=45	1	
B 36		キャップボルト M10 P1.25 L=55	1	
B 37		キャップボルト M10 P1.25 L=65	3	
B 38		キャップボルト M10 P1.25 L=70	1	
B 39		キャップボルト M10 P1.25 L=95	1	
B 40		皿ボルト M8 L=30	2	
B 41		ホタンボルト M6 L=15	3	
B 42		ホタンボルト M8 L=20	2	
B 43		低頭キャップボルト M8 L=40	1	
B 44		フランジ付ナット M6	10	
B 45		フランジ付ナット M8	1	
B 46		フランジ付ナット M10	5	
B 47		ワッシャー M6	20	
B 48		ワッシャー M8	25	

パーツリスト

No.3

連番	品番	品名	数量	備考
B 49		ワッシャー M10	10	
B 50		F-CON iS ×2 + OSC SET(FOR 1UR)	1	
B 51		F-CON ハーネス(F-CON 側)	1	
B 52		F-CON ハーネス(ECU 側)	1	
B 53		圧力センサーハーネス	1	
B 54		圧力センサー	1	
B 55		INJ アダプター	2	
B 56		フランジ付ナット M6	1	
B 57		ホース φ4	1	
B 58		スリーウェイ φ8-φ4-φ8	1	L=2000
B 59		スリーウェイ φ4-φ4-φ4	1	
B 60		エアフィルター φ4	1	
B 61		ワンウェイバルブ	1	
B 62		エアフロ延長ハーネス	2	
B 63		6 極コネクタ	2	
B 64		ブローオフパイプ No.1	1	
B 65		ブローオフパイプ No.2	1	
B 66		ベルト 7PK1030	1	
B 67		ベルト 6PK2135	1	
C 01		プーリーカバー	2	
C 02		スプーサー D= 20 d=10 t= 16.5	1	
C 03		スプーサー D= 20 d= 8 t= 14.5	3	
C 04		スプーサー D= 15 d= 6 t= 3	1	
C 05		スプーサー D= 20 d= 10 t= 10.5	1	
C 06		ホースクランプ φ16	2	
C 07		ジョイントパイプ φ12	1	
C 08		ジョイントパイプ φ12-φ16-φ12	1	
C 09		ホースφ16 (L=150)	1	
C 10		アイトラプーリー φ70	2	
C 11		ウォーターインレットアダプター	1	
C 12		O リング	2	
C 13		ホースφ16 (L=500)	1	
C 14		ジョイントパイプ φ8	1	
C 15		ホースクランプ φ8	2	
C 16		サーモシール (100×100)	1	
C 17		メッシュホース φ16(L=700)	1	
C 18		ブローオフバルブ	1	

パーツリスト

No.4

連番	品番	品名	数量	備考
C 19		アイトラフーリー φ60	2	
C 20		アイトラフーリー φ85	1	
C 21		スペーサー D= 20 d= 10 t= 14	1	
C 22		スペーサー D= 20 d= 8 t= 3	2	
C 23		スペーサー D= 20 d= 8 t= 7	1	
C 24		スペーサー D= 20 d= 10 t= 7	1	
C 25		スペーサー D= 20 d= 10 t = 4.5	1	
C 26		スペーサー D= 20 d= 10 t= 6	3	
C 27		ホースφ6 L=500mm	1	
C 28		ホースクランプ φ6	2	
C 29		ジョイントパイプ φ6-φ4	1	
C 30		スペーサー D= 20 d= 10 t = 7.5	1	
D 01		S/C フラケット No.2	1	
D 02		テンションプーリーフラケット	1	
D 03		アイトラフーリーフラケット No.1	1	
D 04		アイトラフーリーフラケット No.2	1	
D 05		オイルタンクフラケット	1	
D 06		パイプフラケット (穴径φ12)	3	
D 07		パイプフラケット (穴径φ7)	1	
D 08		レベルゲージフラケット	1	
D 09		ドライブプーリーフラケット	1	
D 10		ウォーターバイパスジョイント	1	
D 11		ウォーターアウトレット ガasket	2	
D 12		シリコンホース(紫) φ65 L=70	6	
D 13		ホースバンド #36	1	
D 14		ホースバンド #40	15	
D 15		ホースバンド #48	3	
D 16		ホースバンド #56	1	
D 17		ホースバンド #44	5	
D 18		ホースバンド #20	8	
D 19		タイラップ 小 L=100	50	
D 20		タイラップ 中 L=150	50	
D 31		タイラップ 大 L=250	30	
D 32		ドライブプーリー	1	
D 33		ドライブプーリーシャフト Assy	1	
D 34		スペーサー D= 20 d= 8 t= 37.2	1	
D 35		スペーサー D= 20 d= 10 t= 39.5	1	

パーツリスト

No.5

連番	品番	品名	数量	備考
D 36		六角スペーサー B= 17 M 10 t= 46.5	1	
E 01		コルゲートチューブ φ5 L=2000	1	
E 02		コルゲートチューブ φ7 L=3000	1	
E 03		コルゲートチューブ φ10 L=3000	1	
E 04		コルゲートチューブ φ13 L=250	1	
E 05		コルゲートチューブ φ15 L=4000	1	
E 06		コルゲートチューブ φ22 L=250	1	
E 07		取付説明書	1	
E 08		取扱説明書	1	
E 09		取扱説明書	1	
E 10		インタークーラー	1	
F 01		エアクリーナダクト	1	
F 02		エアクリナーボックス(下側)	1	
F 03		エアクリナーボックス(上側)	1	
F 04		エンジンカバー	1	
F 05		スペーサー D= 10 d= 4 t= 5	4	
F 06		エンジンカバーブラケット	1	
F 07		隙間テープ L=300mm	5	
F 08		スポンジシート 50×50×3	5	
F 09		エンジンルームカバー(前)	1	
F 10		エンジンルームカバー(左)	1	
F 11		エンジンルームカバー(右)	1	
		メタルキャタライザー(左)	1	同梱していません
		メタルキャタライザー(右)	1	同梱していません

※パーツリスト内の部品の中には、補修パーツとして設定してある部品もありますので、別途ご購入の際は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

※ボルト・ナット・ワッシャーは余分に入っているものもあります。余分はスペアパーツとして使用してください。

主要部品図(1)



A01: GTS8550



A02: S/C ガasket



A04: S/C フーリー



A05: フルドクーラーコア



A06: フルドタンク



A07: トラクションフルード



D08: フラケット (穴径 φ7)
※使用しません



A11: ホース Assy φ10



A15: インタークーラー フラケット No.1



A16: インタークーラー フラケット No.2



A17: インタークーラー フラケット No.3



A18: プライントナット M6



A26: サクションパイプ



A27: S/C フラケット No.1

A19: インレットパイプ No.1

A20: インレットパイプ No.2

A25: アウトレットパイプ No.4

A23: アウトレットパイプ No.2

A21: インレットパイプ No.3

A24: アウトレットパイプ No.3

A22: アウトレットパイプ No.1

主要部品図(2)



B01:ステアリング ECU
ブラケット No.1



B02:ステアリング ECU
ブラケット No.2



B03:パイプブラケット No.1



B04:アースアダプター



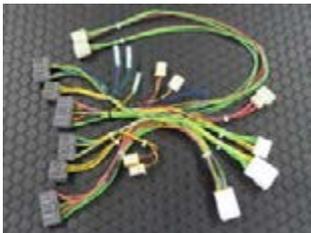
B15:インシュレーターラバー B16:リテーナー



B18:ナットプレート M10



B50:F-CON iS ×2 +OSC SET(FOR 1UR)



B51:F-CON ハーネス
(F-CON 側)



B52:F-CON ハーネス
(ECU 側)



B53:圧力センサーハーネス



B54:圧力センサー



B55:INJ アダプター



B61:ワンウェイバルブ



B62:エアフロ延長ハーネス



B63:6 極コネクター



B64:プロ-オフパイプ No.1



B65:プロ-オフパイプ No.2



B66:ベルト 7PK1030

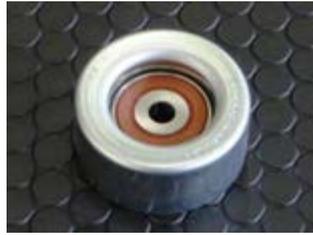


B67:ベルト 6PK2135

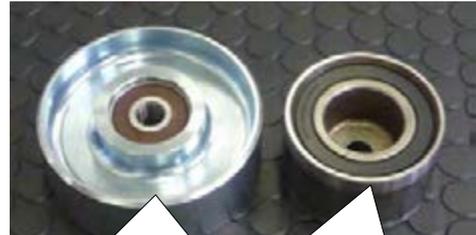
主要部品図(3)



C01: プーリーカバー



C10: アイドラプーリー φ70

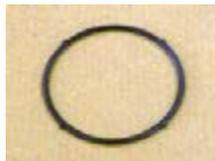


C20: アイドラプーリー φ85

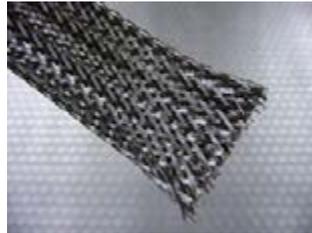
C19: アイドラプーリー φ60



C11: ウォーターインレットアダプター



C12: Oリング



C17: メッシュホース φ16



C18: ブローオフバルブ



D01: S/C ブラケット No.2



D02: テンショナーブラケット



D03: アイドラプーリー
ブラケット No.1



D04: アイドラプーリー
ブラケット No.2



D05: オイルタンクブラケット



D06: パイプブラケット
(穴径 φ12)



D07: パイプブラケット
(穴径 φ7)



D08: レベルゲージブラケット



D09: ドライブプーリーブラケット



D10: ウォーターバイパスジョイント



D11: ウォータアウトレット ガasket



D32: ドライブプーリー



D33: ドライブプーリーシャフト Assy

主要部品図(4)



E10: インタークーラー



F01: エアクリーナダクト



F02: エアクリナーボックス
(下側)



F03: エアクリナーボックス
(上側)



F04: エンジンカバー



F09: エンジンルームカバー(前)



F10: エンジンルームカバー(左)



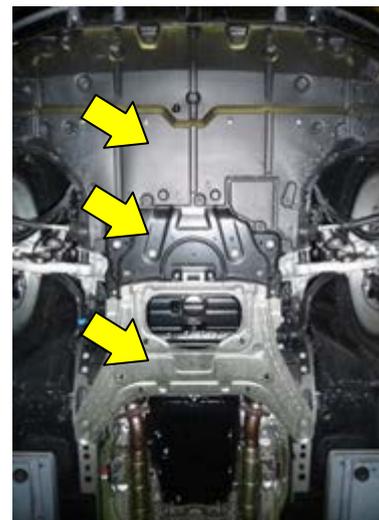
F11: エンジンルームカバー(右)

1. ノーマルパーツの取外し

整備要領書に従って作業を行なう。

○IG OFF 後、6分以上放置する。(HDD ナビのメモリー・設定記憶のため)

○アンダーカバー(3 個)を取外す。



○エンジンルームカバー、エンジンカバーを取外す。



○エンジンルームカバー裏のマウンティングラバー
2個を取外す。(再使用します)



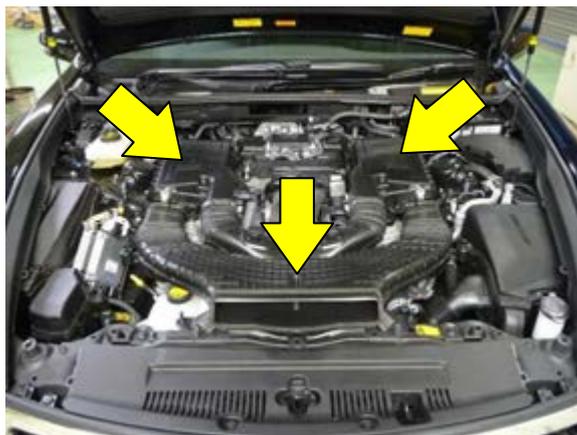
○クリップ 6 個を外し、カウルトップベンチレーター
ルーバーLH を取外す。



○バッテリーの端子接続を取外す。

○バッテリーを取外す。

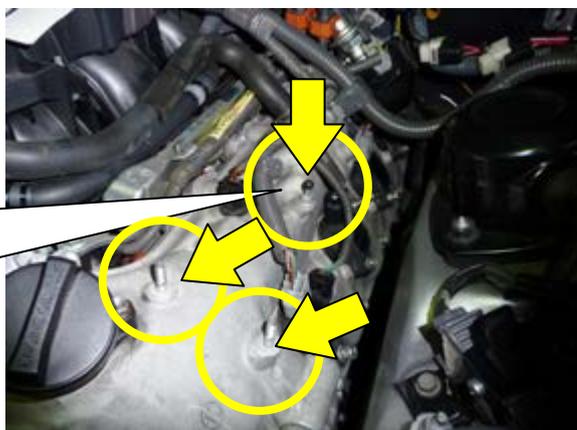
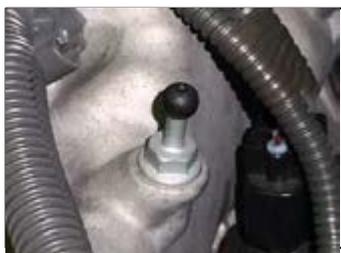
○エアクリーナ BOX、エアダクトを取外す。



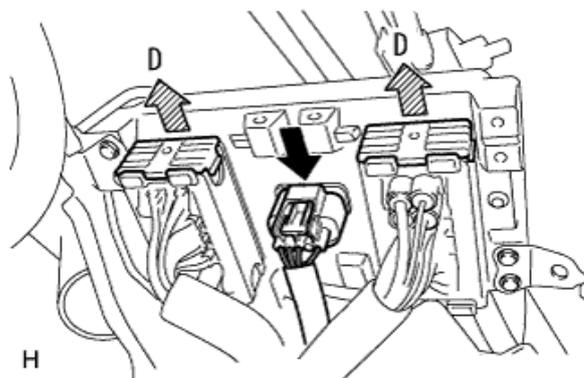
○エアクリーナーBOXのマウンティングボルトを取外す。

(左右バンク共。再使用します)

○スタッドボルト(2本)を取外す(左バンクのみ)



○スキッドコントロール コンピュータ ASSY を取外す



○スパークプラグ(別売)を交換する。

※1・2・3・4 番シリンダーは、保護テープを巻いた
マイナスドライバーを使用して、シリンダヘッドカバー
の切り欠き部をこじて、スパークプラグチューブガスケット
とイグニッションコイルを同時に取りはずす。

※スパークプラグチューブガスケットを取りはずす時に
シリンダヘッドカバーを傷つけないようにする。



○スキッドコントロール コンピュータ ASSY を取付ける。

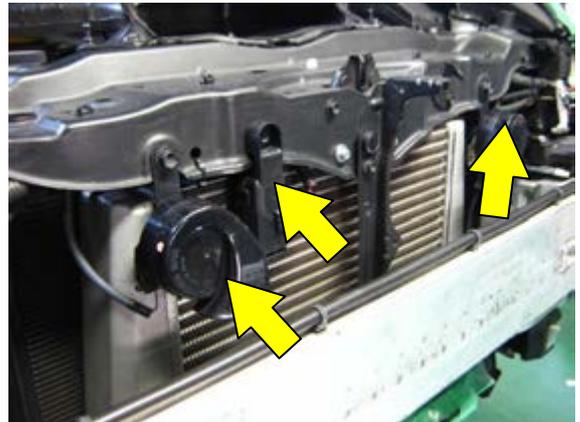
○フロントバンパーを取外す。

※フォグランプのステー外し忘れに注意

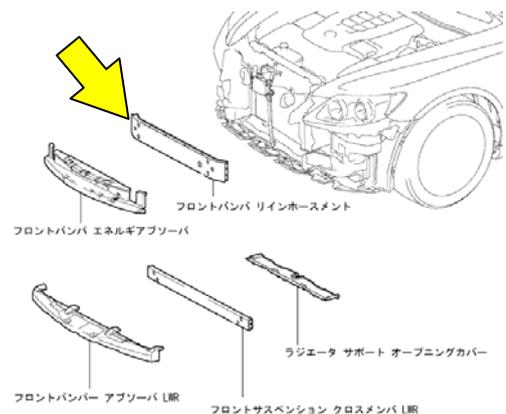
○ブレーキダクト(左右)を取外す。



○ホーン(左右)、スモッグセンサーを取外す。



○バンパーレインフォースを取外す。



- エンジン冷却水を抜取る。
- ラジエーターザーブタンクを取外す。

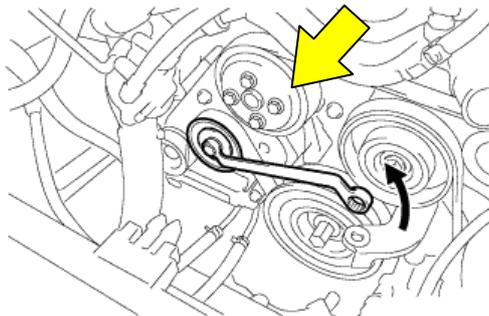
アドバイス

2010/08 以前の車両ではラジエーター側のφ10 ニップルが細く、折れやすいため、脱着時は注意する。

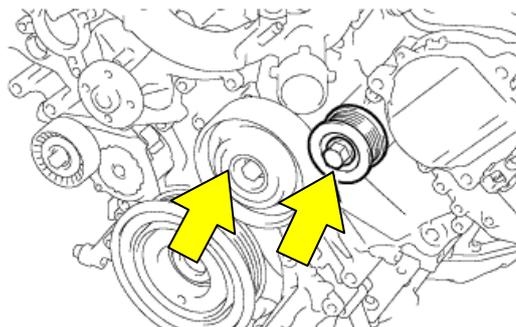
- ラジエーターアッパーホース及びロアホースを取外す。



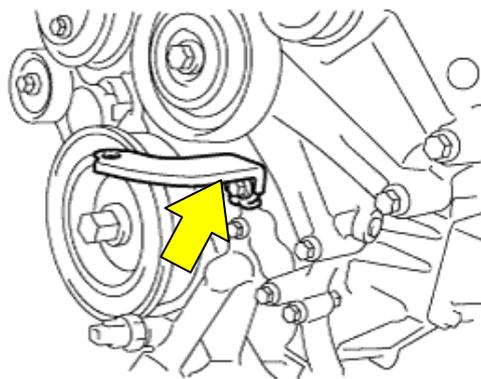
- ベルトを掛けたまま、ウォーターポンププーリーのボルト(4個)を緩める。
- オートテンショナーを緩め、ベルトを取外す。
- ウォーターポンププーリーを取外す。



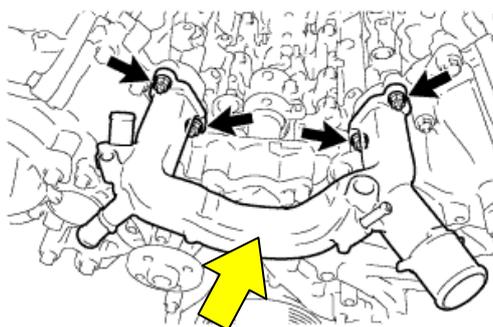
- アイドルプーリー(2個)を取外す。



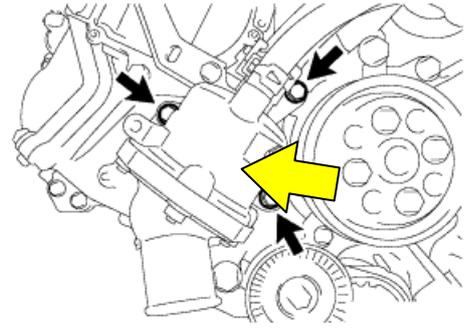
- レゾネータブラケットを取外す。



- ウォーターバイパスジョイント FR 及びウォーターアウトレットガスケット 2 個を取外す。



○ウォータインレットハウジングおよびガスケットを取外す。



2. ノーマルパーツの移動・加工・変更

○パワーステアリングコンピューター(以下 P/S コンピューター)を取付ブラケットと共に取外す。

○P/S コンピューターから取付ブラケットを取外す。



○オルタネータのアースおよびブラケットを取外す。



○エンジンハーネスの取り回しを変更する。(右バンク前方)



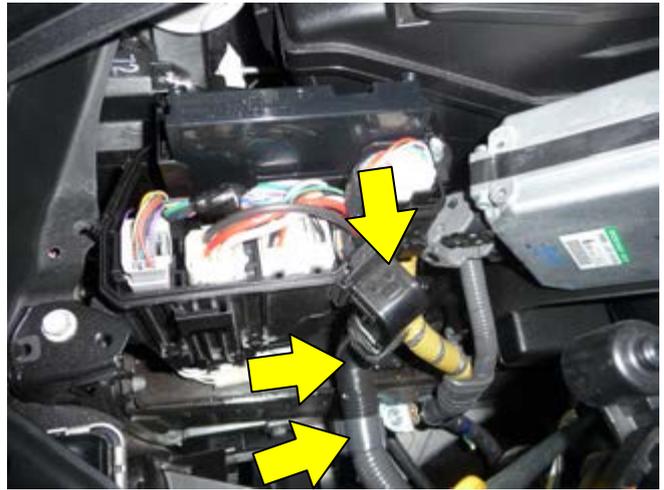
変更前



変更後

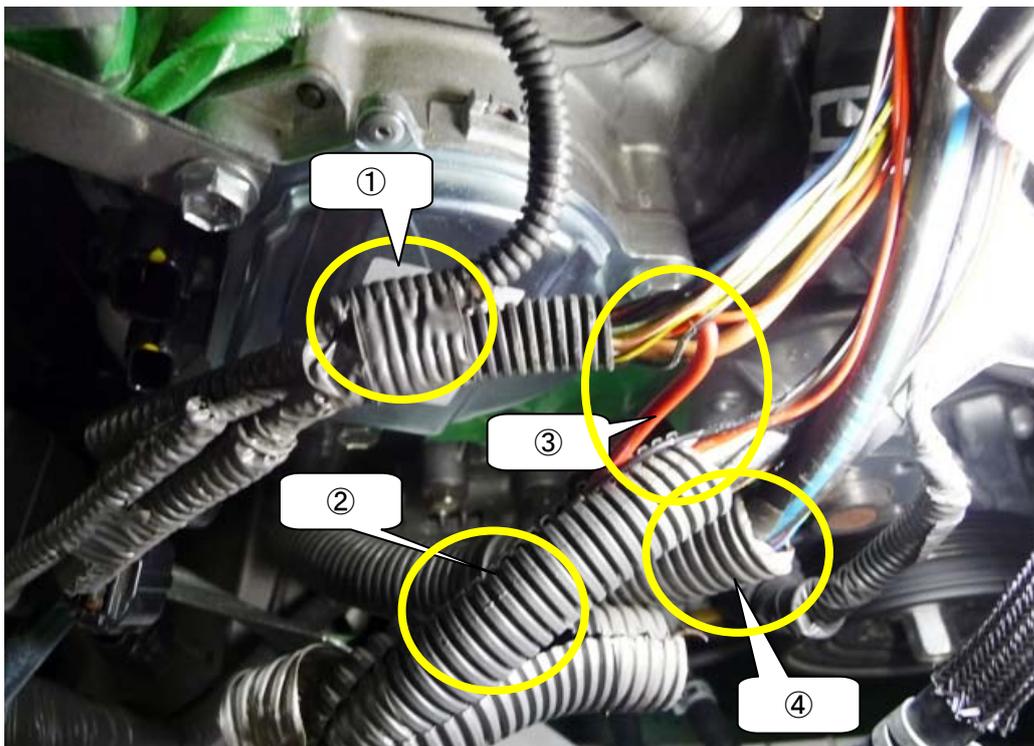


丸で囲った範囲のエンジンハーネスのコルゲートチューブを取外す。

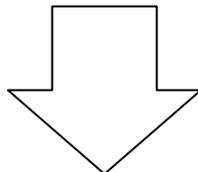


ハーネスクランプ、ハーネスカバー、コルゲートチューブを取外す。

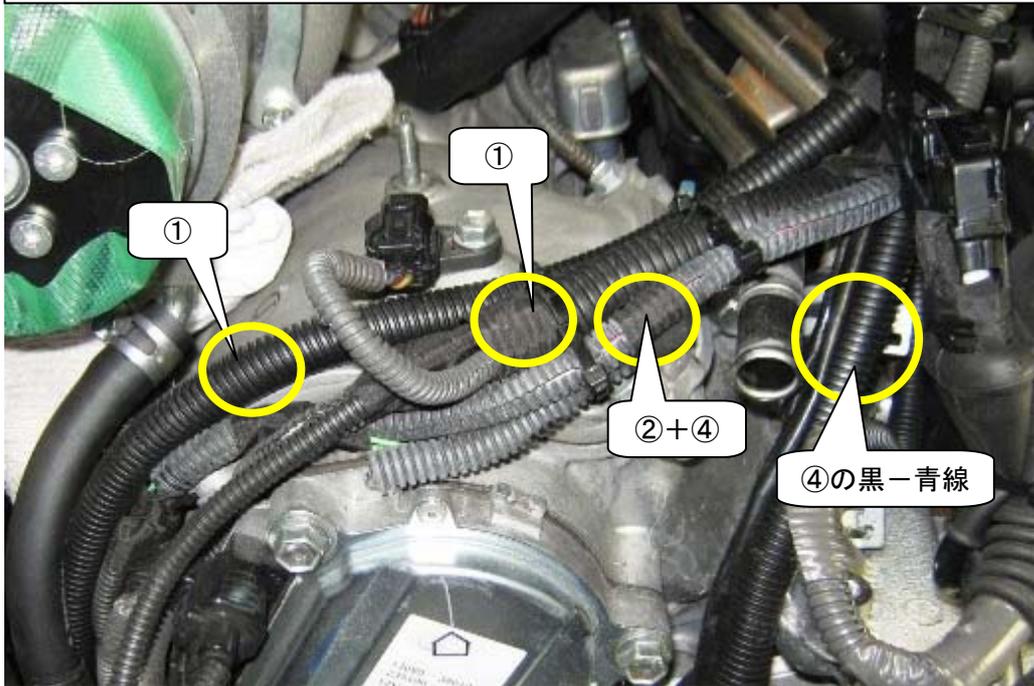
・コルゲートチューブ $\phi 5 / \phi 7 / \phi 10 / \phi 13$



- ①と②のグループから③の赤線を分離する。
- ①のグループは2つにまとめなおしてヘッドの上面を取り回す。
- ④のグループから一番大径の黒-青線と黒いチューブで保護された線以外を、
 $\phi 7$ のコルゲートチューブでまとめてヘッドの上面を取り回す。
- ④のグループ黒-青線と黒いチューブで保護された線を②のグループをまとめて
VTCユニットの下を取り回す。



変更後

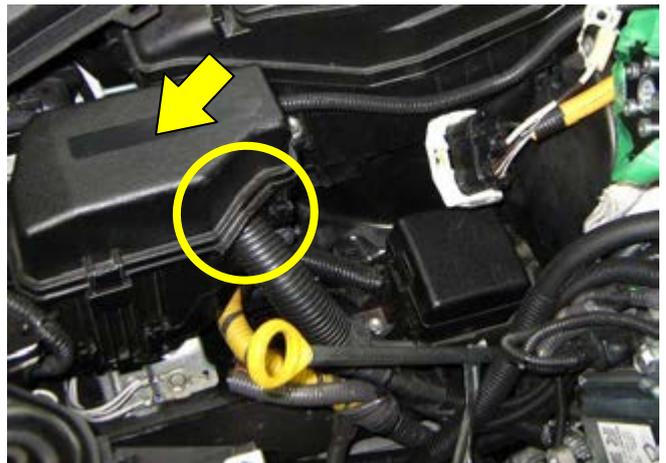


・コルゲートチューブ φ5/φ7/φ10/φ13

- ・サーモシール(100×100)
- ・タイラップ(小)
- ・コルゲートチューブφ22



VTCユニットの下を取り回すハーネスは、VTCユニットと後で取付けるウォーターインレットアダプターとの間に挟み込むため、ハーネスをフラットケーブル状に並べてサーモシールで保護する。



リレーブロックのカバー内のハーネスまでコルゲートチューブφ22を被せ、リレーブロックのカバーを取付ける。



変更後拡大1



変更後拡大2

OP/S コンピューターを取付ける。



- ・P/S コンピューターブラケット No.1
- ・P/S コンピューターブラケット No.2
- ・アースアダプター
- ・スペーサー D=20 d=6 t=10
- ・キャップボルト M6 L=15 (3 個)
- ・キャップボルト M6 L=30
- ・ワッシャ M6 (4 個)
- ・ワッシャ大径 M6



・パイプブラケット No.1

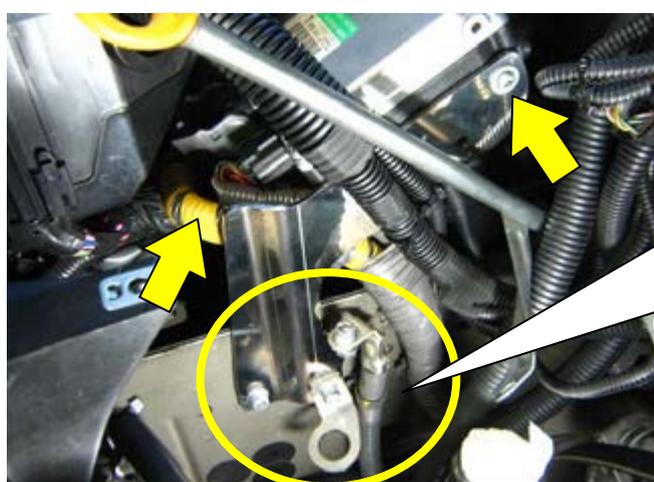
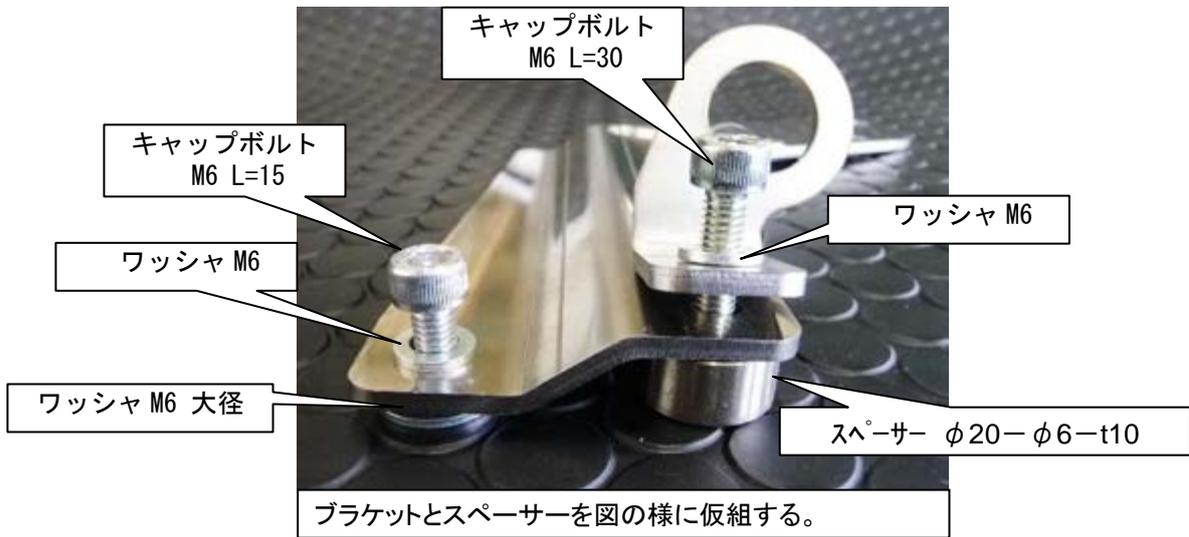


ブラケットを取付ける。ボルトはノーマル再使用。



図示したネジ穴にブラケットを取付ける。

- ・キャップボルト M6 L=15
- ・ワッシャ M6



- ・P/S コンピューターのコネクタを取付ける。
- ・P/S コンピューターのハーネスはブラケットと車体の間を通す。
- ・P/S コンピューター側面はノーマルボルト再使用 (2カ所)
- ・アースをステアリング ECU ブラケットに移設する。
 - ・キャップボルト M6 L=15
 - ・ワッシャ M6
 - ・フランジナット M6



オルタネーターアースのブラケットを取外し、ブラケットが止めてあったネジ穴とその左側のネジ穴へブラケットを固定する。



リレーボックスから出ているハーネスはタイラップでブラケットに固定する。



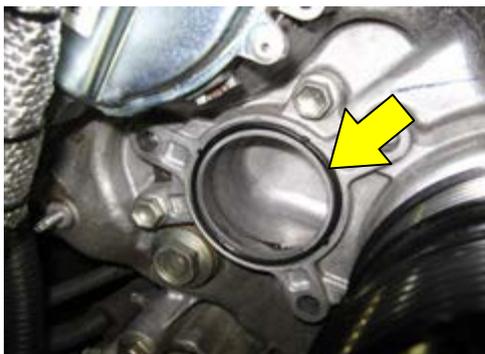
P/S コンピューターハーネスのアースを取付ける。
 ※アース端子先端が、ボディと干渉しないように、図の向きで取り付ける。
 ※ECT ハーネスが無理に引っ張られている場合は、ハーネスのクランプ部を外すなどして引っ張られないようにする。

- ・キャップボルト M6 L=15 (2個)
- ・ワッシャ M6 (2個)
- ・フランジナット M6

○ウォーターインレットアダプターを取付ける。



- ・ウォーターインレットアダプター
- ・Oリング
- ・ノーマルボルト M8(3個)



○リングを取付ける。



ハーネスを VTC ユニットとの間に挟んで取付ける。

- ・ボルト M8(再使用:3 個)

締付けトルク N・m(kgf・m)

T=21(2.14)

○ウォーターバイパスジョイントを取付ける。

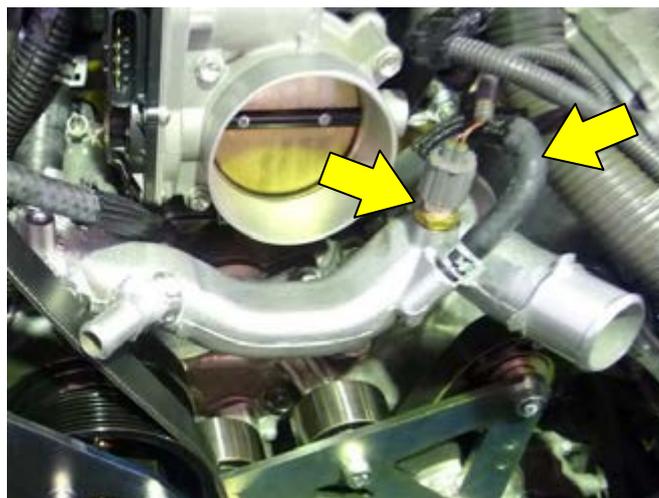


・ウォーターバイパスジョイント



- ・ウォーターアウトレット
ガスケット(2個)

- ・ナット M8
(再使用:4個)



締付けトルク N・m (kgf・m)

- ・ナット M8 : T=21(2.14)

- ・水温センサー : T=21(2.14)

○水温センサーを取付ける。

○ヒーターホースφ8を取付ける。

○ドライブプーリーシャフト ASSY から、ベアリングホルダーを取外す。



・ドライブプーリーシャフト ASSY



○ウォーターポンププーリーにドライブプーリーとドライブプーリーシャフトを重ねて取付ける。



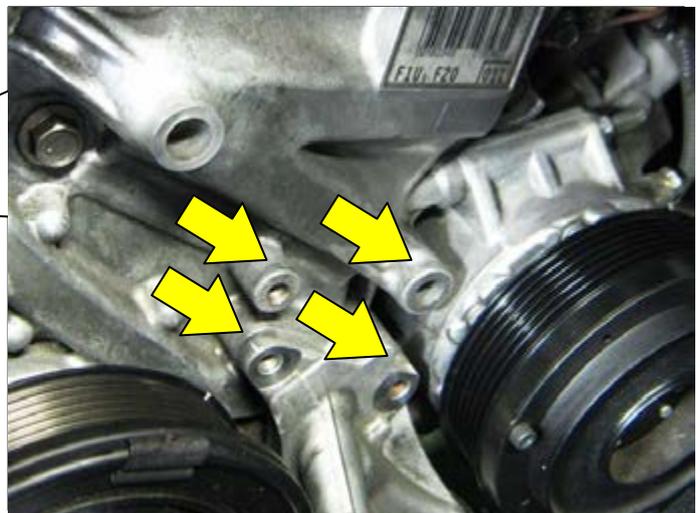
・ドライブプーリー
・キャップボルト M8 L=25 (4 個)
・ワッシャ M8 (4 個)



締付けトルク N・m (kgf・m)
T=21(2.14)

3. アイドラプーリーブラケットの取付け

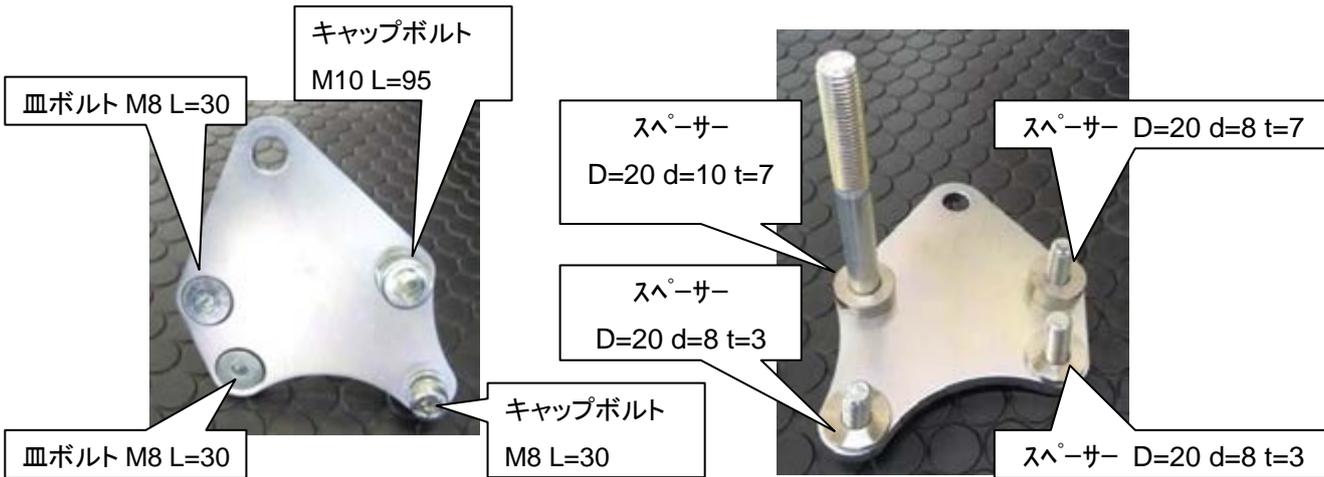
○ボルト4本を取外す。



○アイドラプーリーブラケット No.2 にスペーサーを仮付けする。



- ・アイドラプーリーブラケット No.2
- ・スペーサー D=20 d=8 t=3 (2 個)
- ・スペーサー D=20 d=8 t=7
- ・スペーサー D=20 d=10 t=7
- ・皿ボルト M8 L=30 (2 個)
- ・キャップボルト M8 L=30
- ・キャップボルト M10 L=95
- ・ワッシャ M8
- ・ワッシャ M10



○アイドラプーリーブラケット No.2 を取付ける。

締付けトルク N・m (kgf・m)

M8 ボルト T=21(2.14)

M10 ボルト T=47(4.79)

○ベルト 6PK2135 を図の様に仮付けする。



・ベルト 6PK2135



○矢印の隙間にペーパーウエス等を仮に詰めておく。

(後にプーリーを固定する際、ナットがこここの隙間に落ちると、取り出せなくなるため)



○アイドラプーリーブラケット No.1 にアイドラベアリングを取付ける。



- ・アイドラプーリーブラケット No.1
- ・アイドラプーリー $\phi 60$
- ・六角スペーサー B=17 M10 L=46.5
- ・スペーサー D=20 d=10 t=6
- ・キャップボルト M10 P=1.5 L=35
- ・ワッシャ M10



スペーサー D=20 d=10 t=6

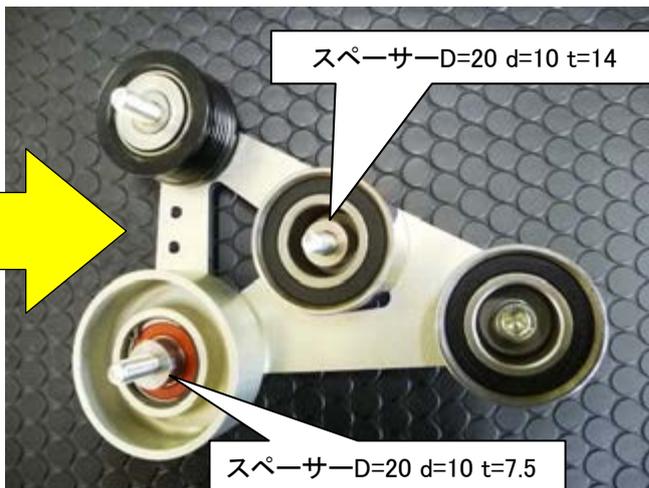
締付けトルク N·m (kgf·m)
M10 ボルト T=47(4.79)

○アイドラプーリーブラケット No.1 にアイドラプーリーを仮付けする。

アイドラプーリー $\phi 85$ は、ベアリング固定の C リングをエンジン側にして取付ける。



- ・アイドラプーリー $\phi 85$
- ・アイドラプーリー $\phi 60$
- ・スペーサー D=20 d=10 t=4.5
- ・スペーサー D=20 d=10 t=7.5
- ・スペーサー D=20 d=10 t=6 (2 個)
- ・スペーサー D=20 d=10 t=14
- ・キャップボルト M10 P=1.25 L=65(2 個)
- ・キャップボルト M10 P=1.25 L=70
- ・ワッシャ M10(3 個)
- ・フランジナット M10



スペーサー D=20 d=10 t=6
キャップボルト M10 L=65

スペーサー D=20 d=10 t=6
キャップボルト M10 L=70

スペーサー D=20 d=10 t=4.5
キャップボルト M10 L=65

スペーサー D=20 d=10 t=14

スペーサー D=20 d=10 t=7.5

○図の様にベルトを掛けて、エンジンに取付ける。

※ベルトはまだ張らない。

○隙間に詰めたペーパーウエス等を取外す。

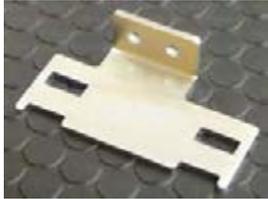


・フランジナット M10

締付けトルク N・m (kgf・m)

M10 ボルト・ナット T=43(4.39)

○アイドラプリーブラケット No.1 にオイルタンクブラケットを取付ける。



- ・オイルタンクブラケット
- ・キャップボルト M6 L=20 (2 個)
- ・ワッシャ M6 (2 個)
- ・フランジナット M6 (2 個)



○フルードタンクを取付ける。



- ・フルードタンク
- ・シリコンホース
φ70 L=20(2 個)
- ・ホースバンド#48(2 個)



φ8 ニップルが車両正面に向くように取付ける。

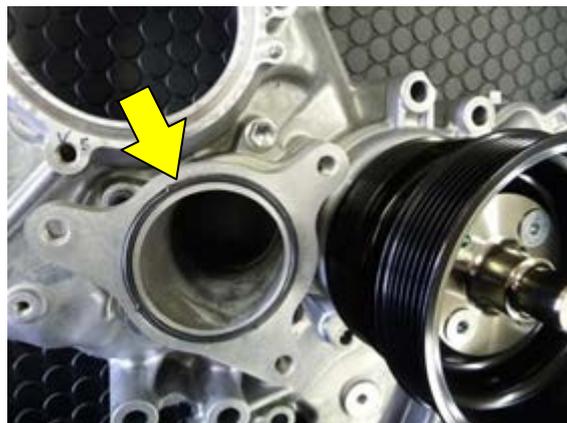
4. ウォーターインレットハウジングの取付け



○Oリングを取付ける。

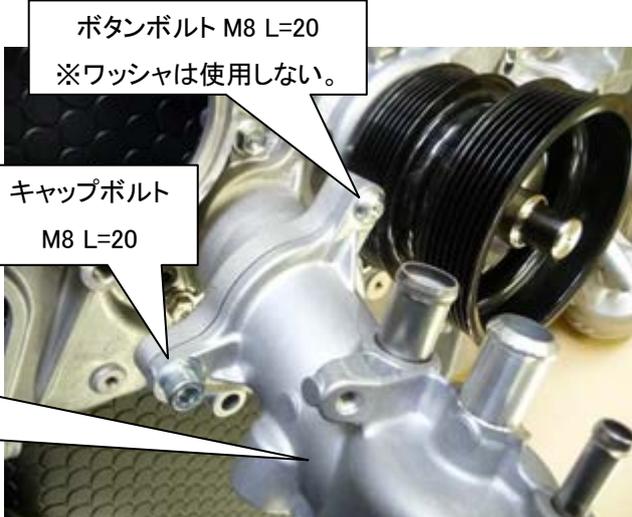


・Oリング



○ウォーターインレットハウジングを取付ける。

- ・キャップボルト M8 L=20
- ・ボタンボルト M8 L=20 (2 個)
- ・ワッシャ M8



ボタンボルト M8 L=20
※ワッシャは使用しない。

キャップボルト
M8 L=20

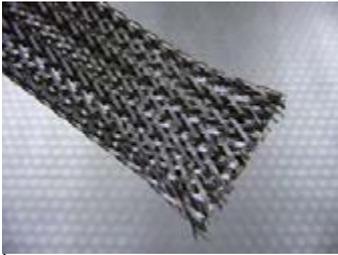
図示していないボルトはボタンボルト M8 L=20 を仮で
取付け、締付け後に取外す。

締付けトルク N·m (kgf·m)
M8 ボルト T=21(2.14)

○ホースφ16 (500mm)をL=265mm、L=175mmに切り分ける。

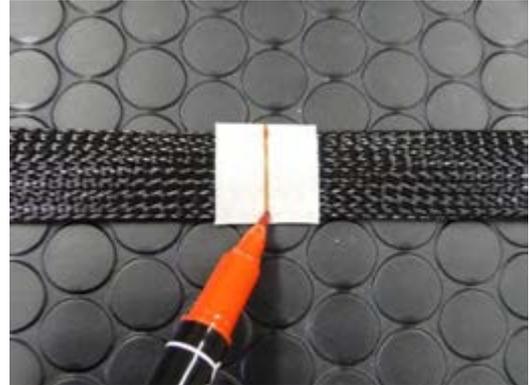
- ・ホースφ16 (500mm)

○ホースメッシュφ16をL=330mm、L=210mmに切り分ける。



・ホースメッシュφ16

- ・ほつれ防止のため、カット位置をマスキングテープで覆う。
- ・軽く引っ張った状態でL=330mm L=210mmに切り分けるためにマーキングする。
- ・L=330mm L=210mmに切り分ける。

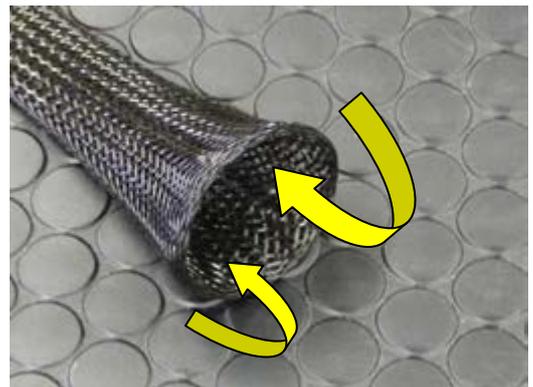


○ホースメッシュを被せタイラップで固定する。

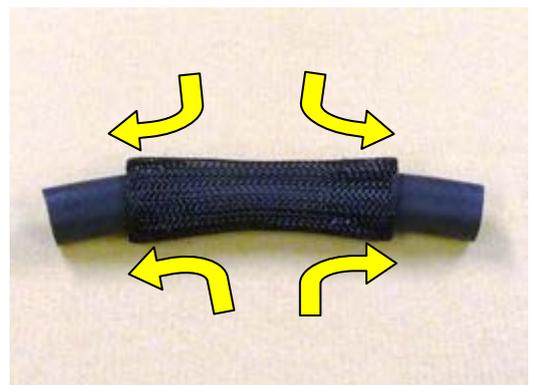
- ・ホースメッシュ先端10mm程度をつまみ、ホースメッシュを膨らませながらホースメッシュ先端を内側へ潜り込ませる。



- ・他端も同様に、ホースメッシュの先端をメッシュ内側へ潜り込ませる。



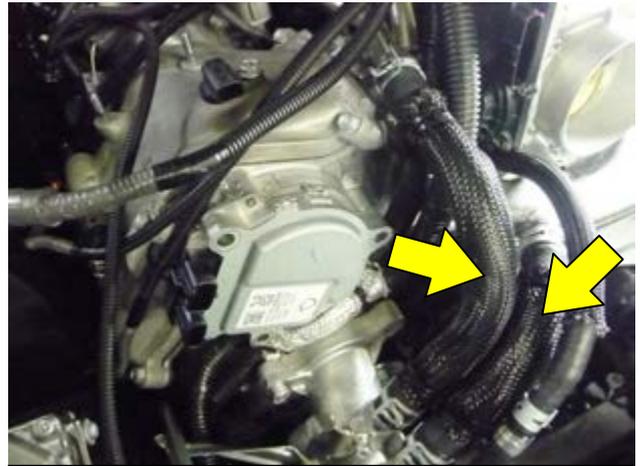
- ・メッシュホースを長手方向に押し縮め、径を広げる。
- ・ホースφ16をメッシュに挿入する。
- ・メッシュホースをホースになじませる。



- ・ホースφ16の端約25mmがむき出しになるようにして、ホースメッシュをタイラップで固定する。
- ・ホースφ16の他端も約25mmがむき出しになるようにホースφ16にメッシュを密着させタイラップで固定する。
- ・ホースメッシュの隙間からはみ出た糸をはさみでカットし整える。



- ホースメッシュを被せたホースφ16を取付ける。
※ホースが折れて潰れないように取付ける。



ホースクリップはノーマル再使用

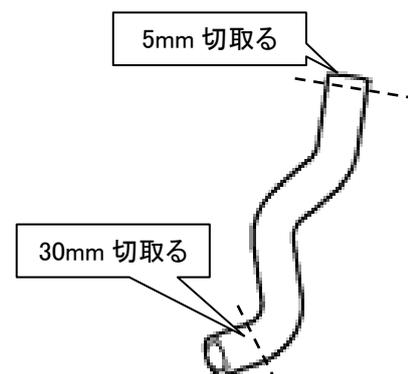
- ホースφ8を延長して取付ける。

- ・ジョイントパイプφ8
- ・ホースクランプφ8(2個)
- ・ホースφ8(L=3000から70mm切り出す)



- ラジエータアホースを加工する。

- ・ラジエータ側を30mm切取る
- ・ウォーターインレットハウジング側を5mm切取る。



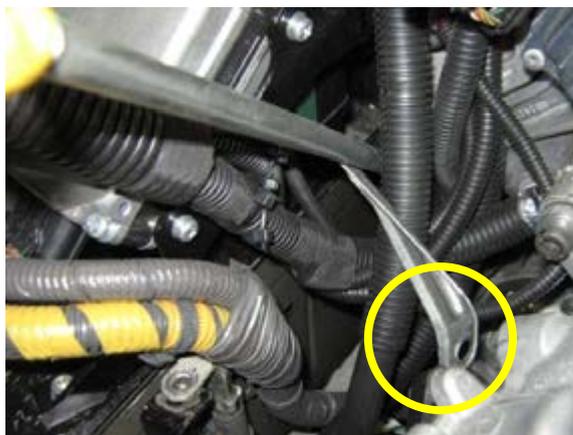
○ラジエーターロアホースを取付ける。

- ・電動ファンの骨とホースが干渉しない様にと付ける。
- ・ホースが潰れないように向きを調整して取付ける

○ラジエーターアツパホースを取付ける。



○オイルレベルゲージのステーをプライヤー等で
図の様に約 55 度折り曲げる。



○オイルレベルゲージを固定する。

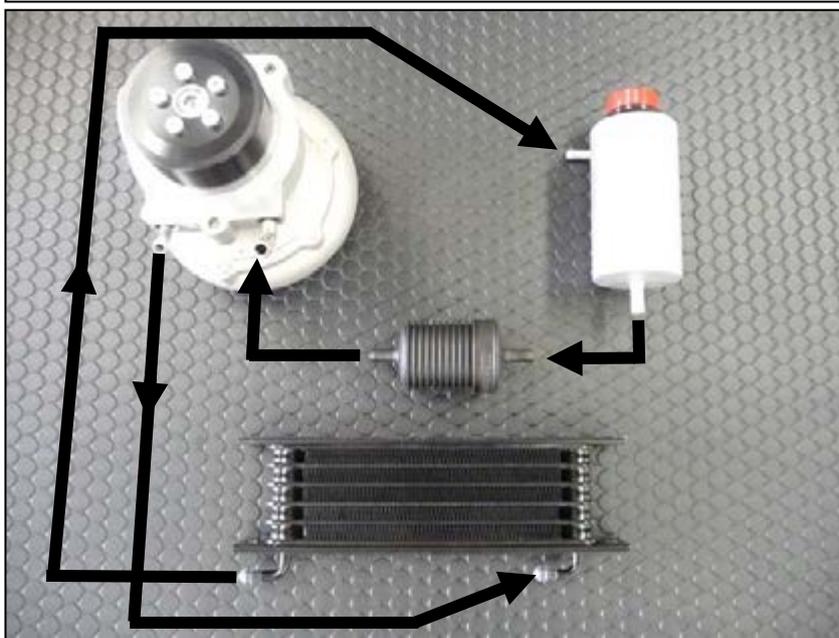


- ・レベルゲージブラケット
- ・キャップボルト M6 L=15 (2 個)
- ・ワッシャ M6 (2 個)
- ・フランジナット M6



5. トラクションフルードホースの取付け

— トラクションフルードの流れ —



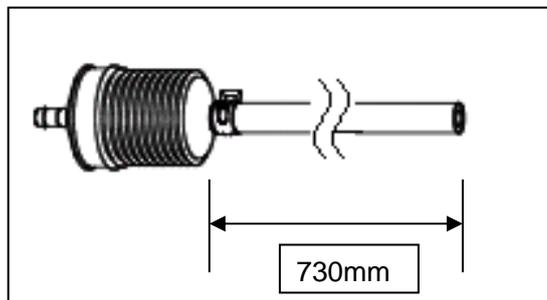
アドバイス

・スーパーチャージャーAssy の内部構成部品は精密部品です。オイルに異物が混入するとスーパーチャージャーAssy が破損します。オイル配管の作業中ホースやタンクに異物が混入しないように作業を行なってください。

○ホース ASSY φ 10のホースをフルードフィルタ側から、730mm で切断する。

※切ったホースは異物が入らないようにマスキングテープなどでマスキングする。

○コルゲートチューブ φ 15 を 300mm 切り、ホース切断面側に取付ける。



・ホース ASSY φ 10
・スパイラルチューブ φ 15

○フルードフィルターにシリコンホース φ 50 L=20 を取付ける。

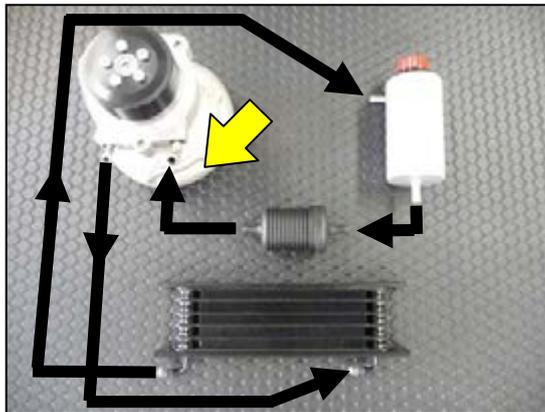
・シリコンホース φ 50 L=20



○ホース切断面側を GTS8550 に取付ける。



- ・GTS8550
- ・ホースクランプ φ10



○残りのホース Assy φ10 を 330 mm に切断する。

○ホース ASSY φ8 を 1390mm と 1440mm に切り分ける

- ・ホース φ8 L=3000

○コルゲートチューブ φ15 を 1350mm と 880mm に切り分ける。

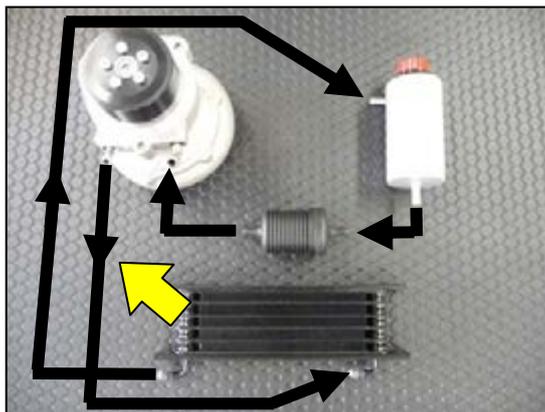
- ・コルゲートチューブ φ15

○1350mm に切ったコルゲートチューブを 1390mm に切ったホース φ8 に取付ける。

○1390mm に切ったホース φ8 を GTS8550 に取付ける。

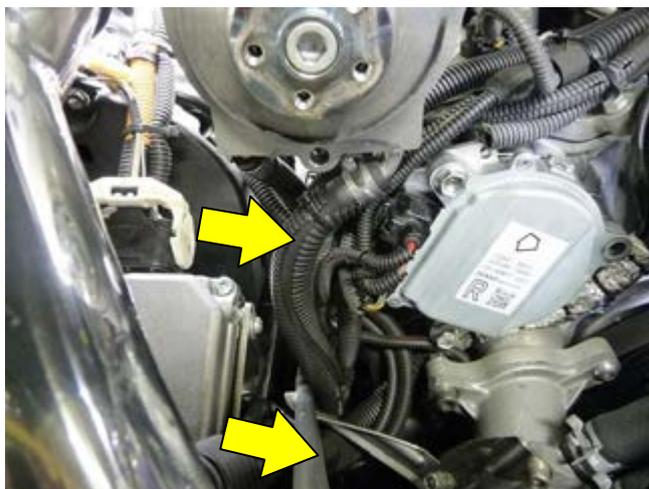
- ・ホースクランプ φ8

※切ったホースは異物が入らないように
マスキングテープなどでマスキングする。



○GTS8550 に取付けたホースを図の様にエンジンと
オイルレベルゲージ間に通す。

○ヘッドカバーやボディーに傷が付かないように
ウエス等で保護し、GTS8550 をヘッドカバーの
上に仮置きする。



6. GTS8550 の取付け



○ VTC カバー(右バンク)のボルト3本を取外す。

アドバイス

VTC カバーが脱落しないようにする。
オイルが出てくる場合があるため、出てこない
ように注意する。出てきたら拭き取る。



○ボルト・スペーサーを S/C ブラケットに仮付けする。

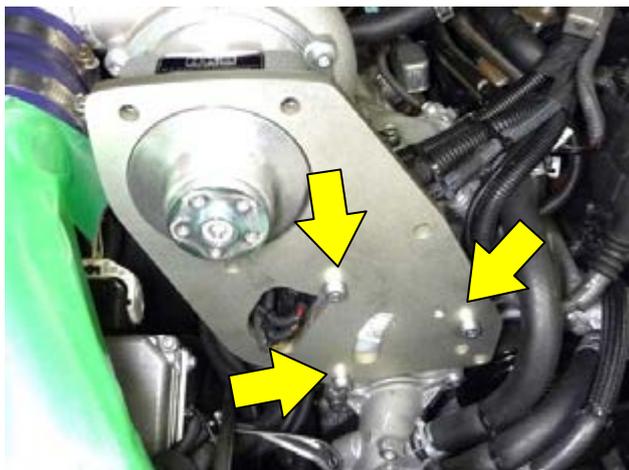


- ・S/C ブラケット No.1
- ・スペーサー D=20 d=8 t=14.5 (3 個)
- ・キャップボルト M8 L=60 (2 個)
- ・六角ボルト M8 L=60
- ・ワッシャ M8 (3 個)



- ・スペーサー D=20 d=8 t=14.5 (3 個)
- ・ワッシャ M8 (3 個)

○ハーネスを挟まないようにして、S/C ブラケットを取付ける。



VTC カバーに S/C ブラケットを共締めする。

締付けトルク N・m (kgf・m)

T=21(2.14)



ハーネスは GTS8550 とヘッドカバーの間を通す。

- ・キャップボルト M8 L=40 (2 個)
- ・低頭キャップボルト M8 L=40
- ・ワッシャ M8 (3 個)



VTC のハーネスはブラケットの穴から出す



キャップボルト M8 L=40

キャップボルト M8 L=40

低頭キャップボルト
M8 L=40

GTS8550 を固定する

締付けトルク N・m (kgf・m)

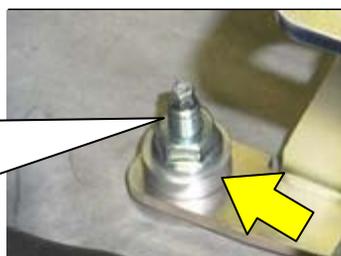
T=29(3.00)

○サクションパイプ・S/C ブラケット No.2 を取付ける。

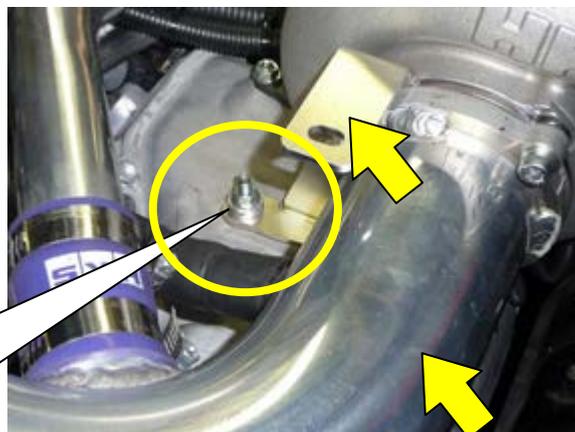


- ・サクションパイプ
- ・S/C ブラケット No.2
- ・ガスケット(2個)
- ・カラー D=15 d=6 t=3
- ・キャップボルト M6 L=25 (3 個)
- ・フランジ付きナット M6

※スタッドボルトのネジが切っていない部分が6mm以下であることを確認してください。6mm以上ある場合はワッシャー・スペーサー等で調整してください。



- ・カラーD=15 d=6 t=3
- ・フランジ付きナット M6

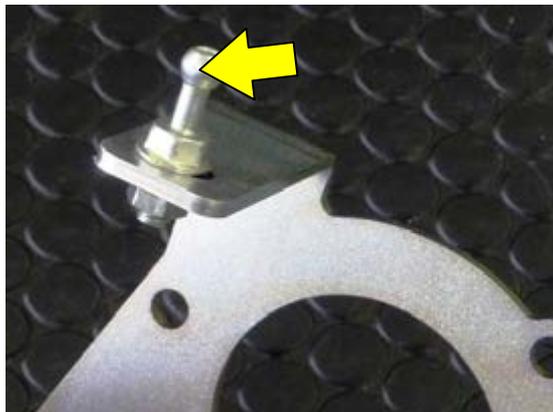


- ・キャップボルト M6 L=25 (3 個)
- ・ワッシャ M6(3 個)
- ・ガスケット(2 個)

○マウンティングボルトを S/C ブラケット No.2 に取り付ける。



- ・マウンティングボルト(再使用)
- ・フランジナット M6



○ホースφ16(150mm)を取付ける。

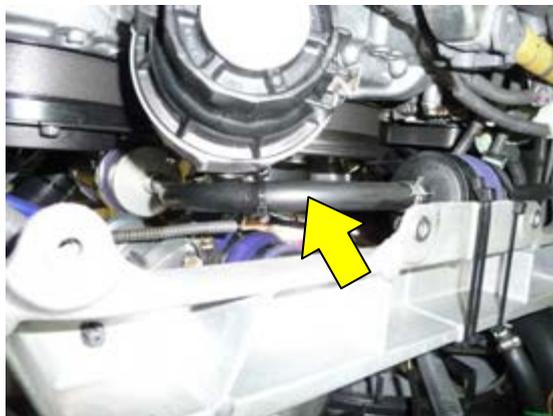
- ・ホースφ16(150mm)
- ・ジョイントパイプφ12-φ16-φ12
- ・ホースクランプφ16(2個)
- ・タイラップ中(2個)



純正ブローパイプホースを矢印の位置で切断し、ホースφ16を135mmに切って取付ける。

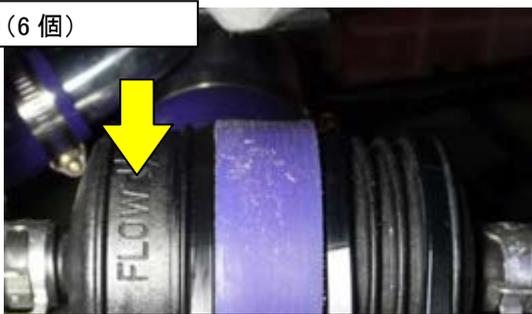
○330mmに切ったホースφ10を、
オイルタンクとフィルターに取付ける。

- ・ホースクランプφ10(2個)



○オイルフィルターをサブメンバーに取付ける。

- ・タイラップ(大)(6個)



矢印の部分にはタイラップを掛けないこと。
オイル漏れの原因となります。



タイラップは図の様に取付ける

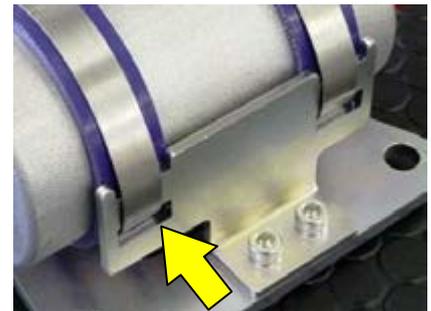
○ホースφ10をオルタネータープーリーに干渉しないようにタイラップで固定する。

- ・タイラップ(中)
- ・タイラップ(小)



○オイルプレッシャースイッチハーネスをタイラップでオイルタンクブラケットに固定する。

- ・タイラップ(中)
- ・タイラップ(小)

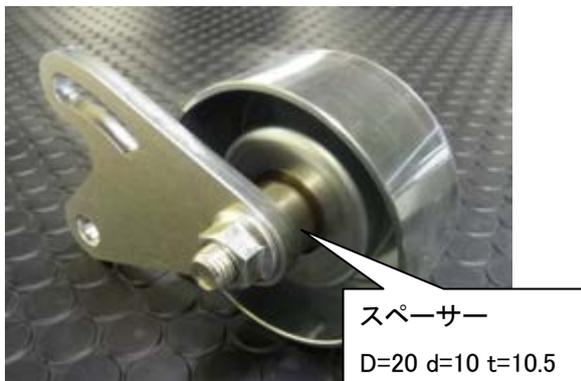


この穴を利用して固定する。

○テンショナプーリーブラケットにテンショナプーリーを取付ける。



- ・アイドラプーリーφ70
- ・プーリーカバー
- ・テンショナプーリーブラケット
- ・スペーサーD=20 d=10 t=10.5
- ・キャップボルト M10 L=45
- ・ワッシャ M10
- ・フランジ付きナット M10



締付けトルク N・m (kgf・m)
M10 ボルト T=47(4.79)

○テンショナープリーブラケットを S/C ブラケットに仮付けする。



- ・ナットプレート M10
- ・スペーサー-D=20 d=10 t=5
- ・キャップボルト M8 L=20
- ・キャップボルト M10 L=35
- ・ワッシャ M8
- ・ワッシャ M10



- ・キャップボルト M8 L=20
- ・キャップボルト M10 L=35
- ・ワッシャ M8
- ・ワッシャ M10
- ・スペーサー-D=20 d=10 t=5



- ・ナットプレート M10

○ベルト 7PK1030 を仮付けする。



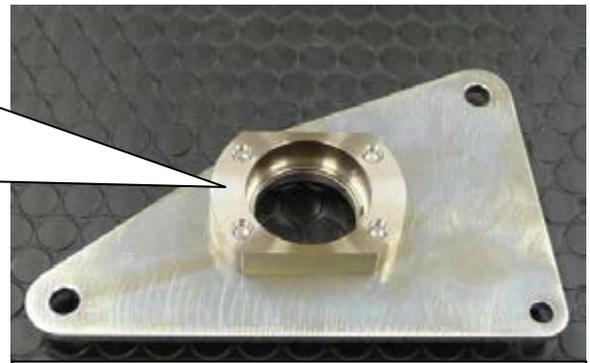
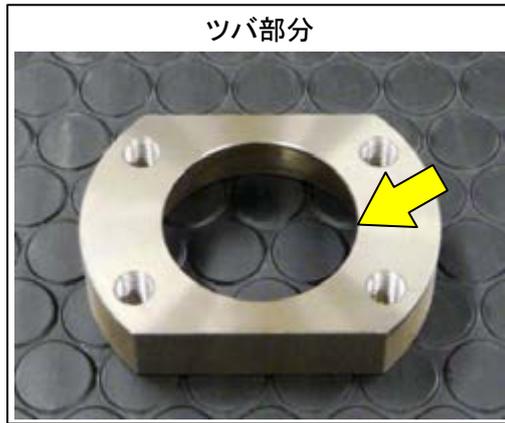
- ・ベルト 7PK1030



○ドライブプリーブラケットにベアリングホルダーを仮付けする。



- ・ドライブプリーブラケット
- ・キャップボルト M8 L=25(4 個)
- ・ワッシャ M8(4 個)



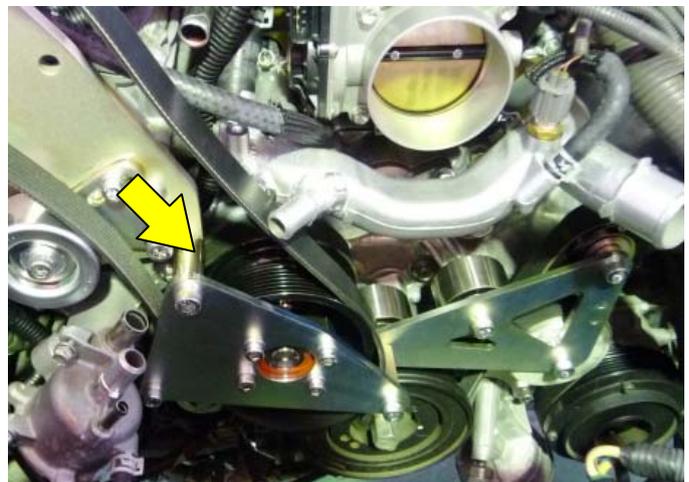
ツバが付いている面をドライブプーリー
ブラケット側に取り付ける。

○ベアリングホルダーのベアリング挿入面に、LOCTITE 603 または 3M RT80J などのはめ合い用嫌気性
接着剤を塗布する。

○ドライブプーリーブラケットを仮付けする。



- ・スペーサー D=20 d=8 L=37.2
- ・スペーサー D=20 d=10 L=39.5
- ・キャップボルト M8 L=65
- ・キャップボルト M10 L=65
- ・キャップボルト M10 L=20
- ・ワッシャ M8
- ・ワッシャ M10



- ベルトはスペーサー D=20 d=10 L=39.5 を跨がせておく
- ・スペーサー D=20 d=10 L=39.5
 - ・キャップボルト M10 L=65
 - ・ワッシャ M10
 - ・ナット M10



ナット M10 はナットプレート M10 と共締めする。



- ・スペーサー D=20 d=8 L=37.2
- ・キャップボルト M8 L=65
- ・キャップボルト M10 L=20
- ・ワッシャ M8

- ウォーターポンププーリーを手で回し、スムーズに回転するように位置出しを行い、ドライブプーリーブラケットを固定する。
- オートテンショナープーリーにベルトを掛け、ベルトを張る。



締付けトルク N・m (kgf・m)
 M8 ボルト T=21(2.14)
 M10 ボルト T=47(4.79)

- GTS8550 に S/C プーリーを取付ける。



- ・S/C プーリー
- ・低頭キャップボルト M6 L=12 (5 個)



- ・ベルト 7PK1030 をプーリーに掛けたまま、GTS8550 に取付ける。
- ・ベルトはプーリーの手前側(車両前方)から7山を使用する。



締付けトルク N・m (kgf・m)
 M6 ボルト T=12(1.22)

- アイドラプーリーを取付ける。



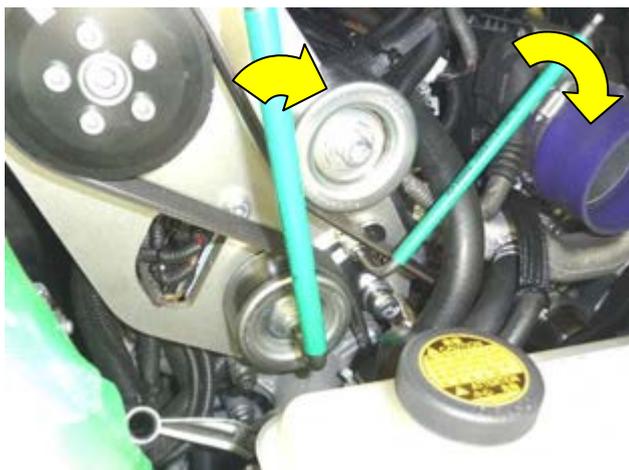
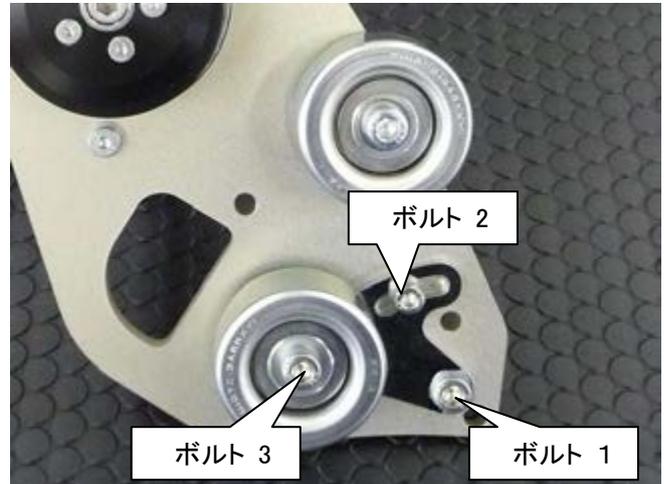
- ・アイドラプーリー φ70
- ・プーリーカバー
- ・スペーサー D=20 d=10 t=16.5
- ・キャップボルト M10 L=55
- ・フランジナット M10
- ・ワッシャ M10



締付けトルク N·m (kgf·m)
M10 ボルト T=47 (479)

○ベルト 7PK1030 を張る。

- ・ボルト 3 に六角レンチ 8mm を掛け、ボルト 1 を中心にしてプーリーφ70 を時計回りにストロークさせる。
- ・ボルト 2 を締め付け、ストロークを固定する。
- ・ボルト 1 を締め付け、テンショナーを固定する。



ベルト張力は図の位置で測定する。
張力計の設定
スパン長 : 230mm
リブ数 : 7
ベルト比重 : 0.0188g/(1リブ×1m 長さ)
張力 : 960N

7. インタークーラー・フルードクーラーコアの取付け



○レインフォースに付いている外気温センサーを取外す。



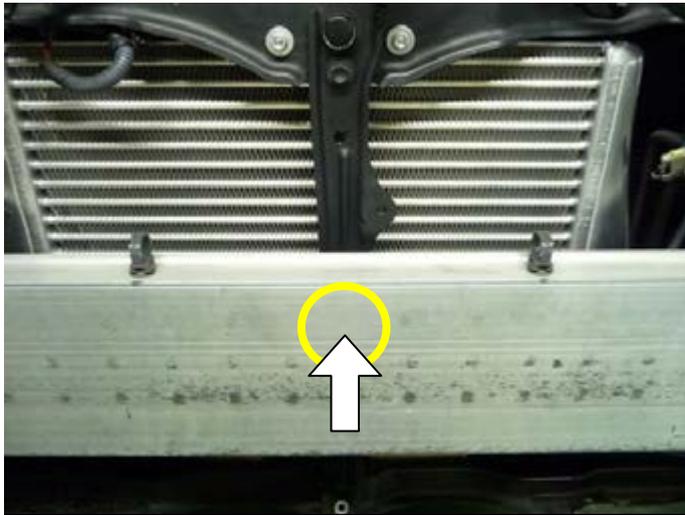
○レインフォース底面、厚さ方向の中心線上にブラインドナットを取付ける。

- ・ブラインドナット M6 (4 個)

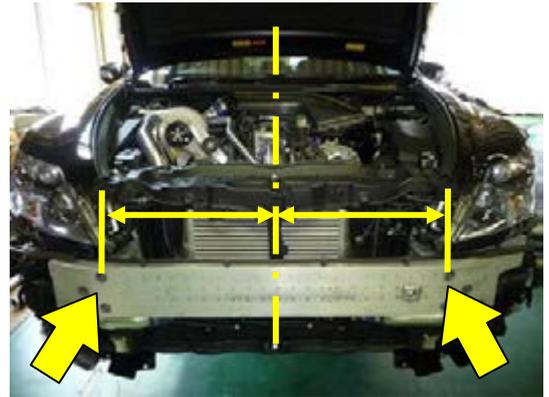
車両前方

50mm 100mm 75mm 80mm

下穴φ9.1mmで穴を開け、専用工具でブラインドナットを取付ける。
推奨締結工具 POP社 MN10A-S/L・PNT110



矢印の位置にポンチでのマーキングがあるので、これをレインフォースの中心線として穴位置を出す。



※)マーキングがない場合は、上図の穴ピッチの2等分線を中心線としてください。

○レインフォースブラケットの加工

- ・パイピングを取付けるため、ベルトサンダー等でレインフォースブラケットのリブ部分を加工する。
- ・下側のレインフォースブラケット加工箇所をつや消し黒でペイントする。



運転席側(右ハンドル車)

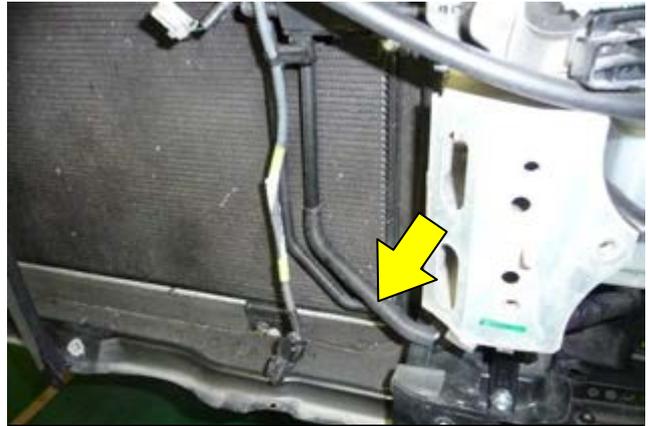


助手席側(右ハンドル車)

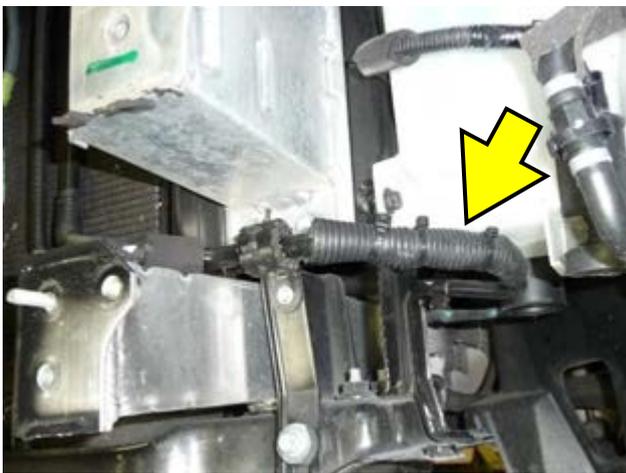


○コルゲートチューブをエアコンパイプに取付ける。

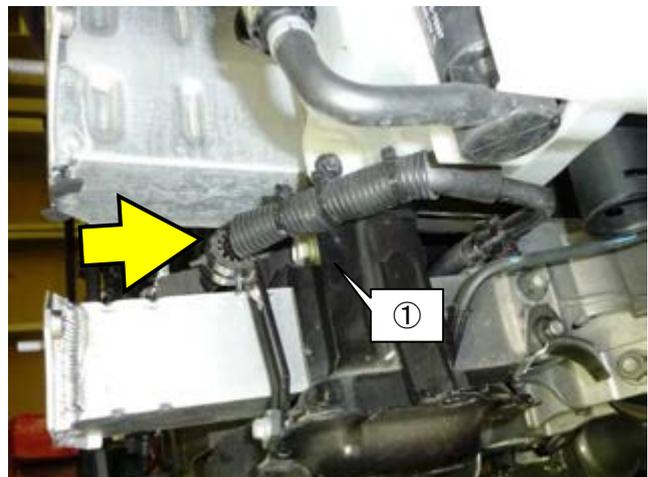
- ・コルゲートチューブ φ10
- ・タイラップ(大)
- ・タイラップ(中)



コルゲートチューブ φ10 (200mm に切って使用)



・コルゲートチューブ φ15
(120mm に切って使用)



エアコンパイプを車両後方押し付けてタイラップで
①の車両側ブラケットに固定
・タイラップ(大) ・タイラップ(中)

○フードロック裏側のハーネスカバーを取外す。



垂れ下がるハーネスはタイラップで固定する。



ハーネスカバー

○インタークーラーブラケット No.1 を取付ける。

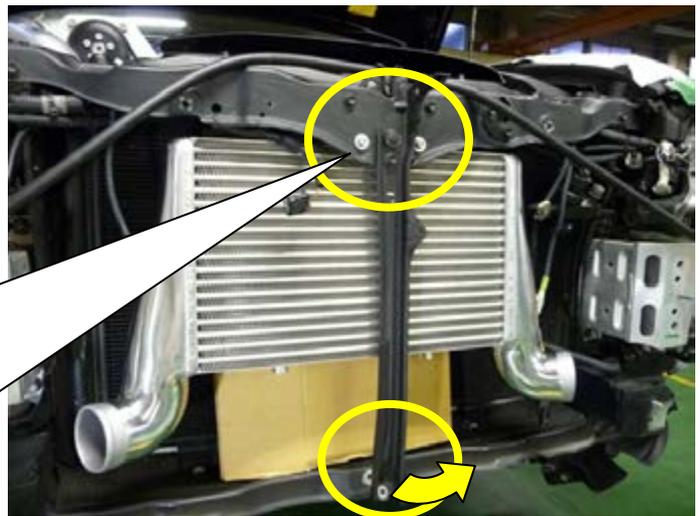
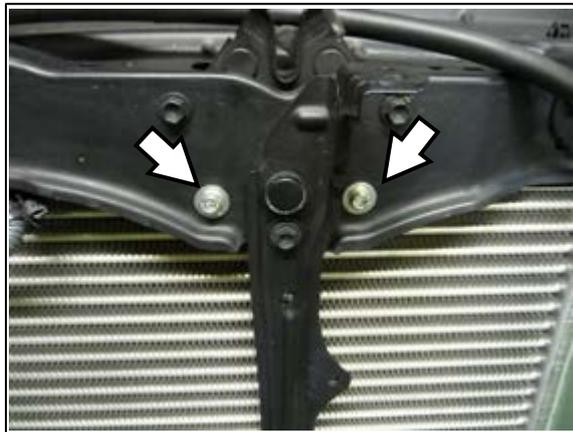


- ・インタークーラー
- ・インタークーラーブラケット No.1
- ・キャップボルト M8 L=15(2個)
- ・ワッシャ M8 (2個)



○インタークーラーを取付ける。

- ・キャップボルト M6 L=15(2個)
- ・大径ワッシャ M6 (2個)



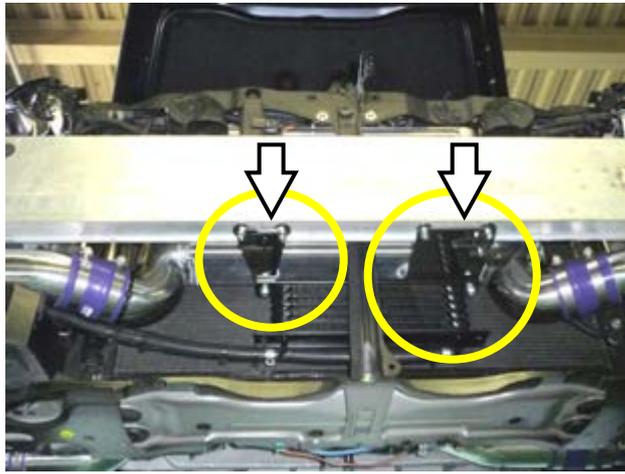
- ①センターブレス下側のボルトを外す。
- ②エアコンのコンデンサーとインタークーラーに傷が付かない様に保護し、センターブレスの下側を手前に引張りながらインタークーラーを入れ、仮付けする。
- ③センターブレス下側のボルトを取付ける。(ボルト再使用)

○レインフォースを取付ける

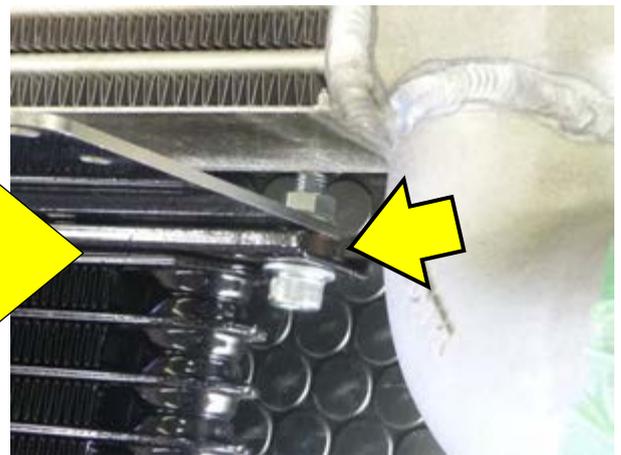
○インタークーラーブラケット No.2・No.3・オイルクーラーコアを取付ける。



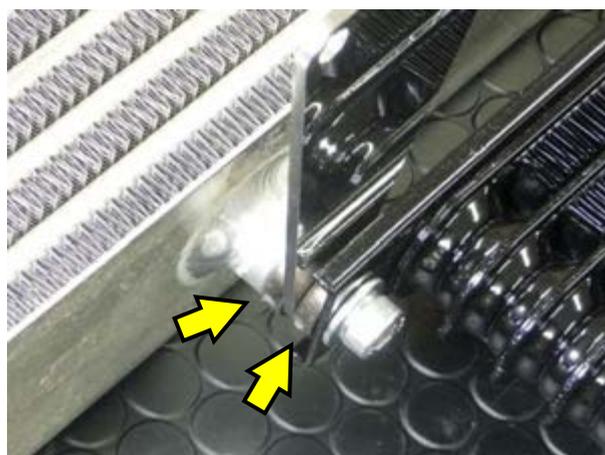
- ・インタークーラーブラケット No.2
- ・インタークーラーブラケット No.3
- ・スペーサー-D=20 d=9 t=5(7個)
- ・キャップボルト M8 L=25(4個)
- ・キャップボルト M8 L=25
- ・キャップボルト M8 L=30
- ・ボタンボルト M8 L=20
- ・フランジ付ナット M8
- ・ワッシャ M6 (4個)
- ・ワッシャ M8 (3個)



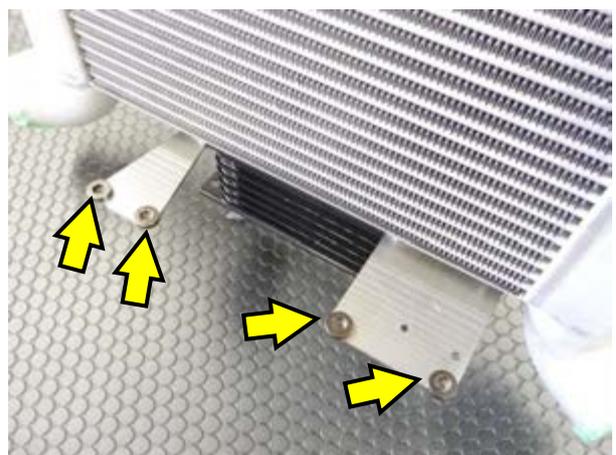
【助手席側】
 インタークーラーブラケット No.2
 →スペーサーD=20 d=9 t=5
 →インタークーラー
 の順に取付ける。
 ・ボタンボルト M8 L=20



オイルクーラーコア
 →スペーサーD=20 d=9 t=5
 →インタークーラーブラケット No.2
 の順に取付ける。
 ・キャップボルト M8 L=25
 ・ワッシャ M8
 ・フランジ付きナット M8



【運転席側】
 オイルクーラーコア
 →スペーサー D=20 d=9 t=5
 →インタークーラーブラケット No.3
 →スペーサー D=20 d=9 t=5
 →インタークーラー の順に取付ける。
 ・キャップボルト M8 L=30
 ・ワッシャ M8



スペーサー D=20 d=9 t=5 (4個)を挟んで、
 レインフォースへ取付ける。
 ・キャップボルト M6 L=25 (4個)
 ・ワッシャ M6 (4個)

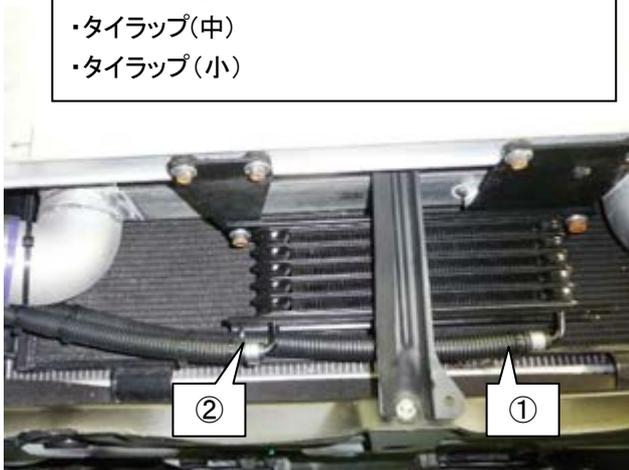
○外気温センサーをインタークーラーブラケット No.2
に取付ける。

・タイラップ(大)



○トラクションフルード配管を取付ける。

- ・ホースφ8
- ・ホースクランプφ8(3個)
- ・コルゲートチューブφ15 L=4000
- ・タイラップ(大)
- ・タイラップ(中)
- ・タイラップ(小)



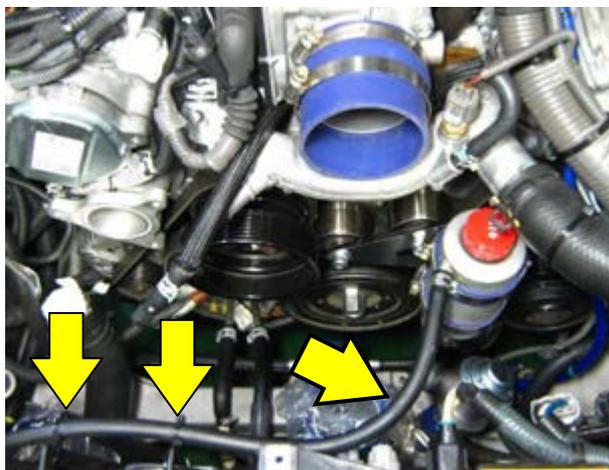
- ①は S/C に接続 (φ8 L=1390mm)
- ②はオイルタンクに接続(コルゲートチューブ φ15 L=880 をφ8 L=1440mm に取付け)



矢印の部分を通して、エンジンルーム内へ導く。

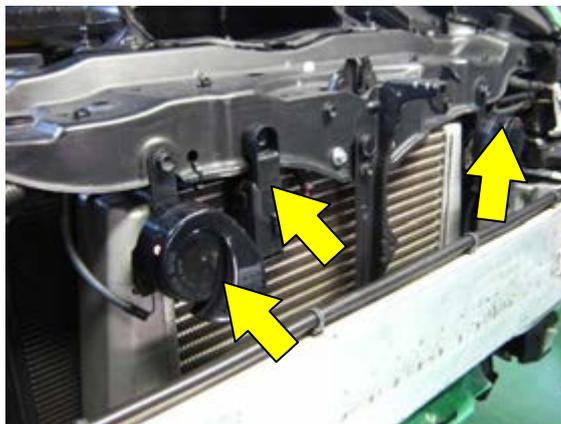


ホースを電動ファンのリブへ固定。

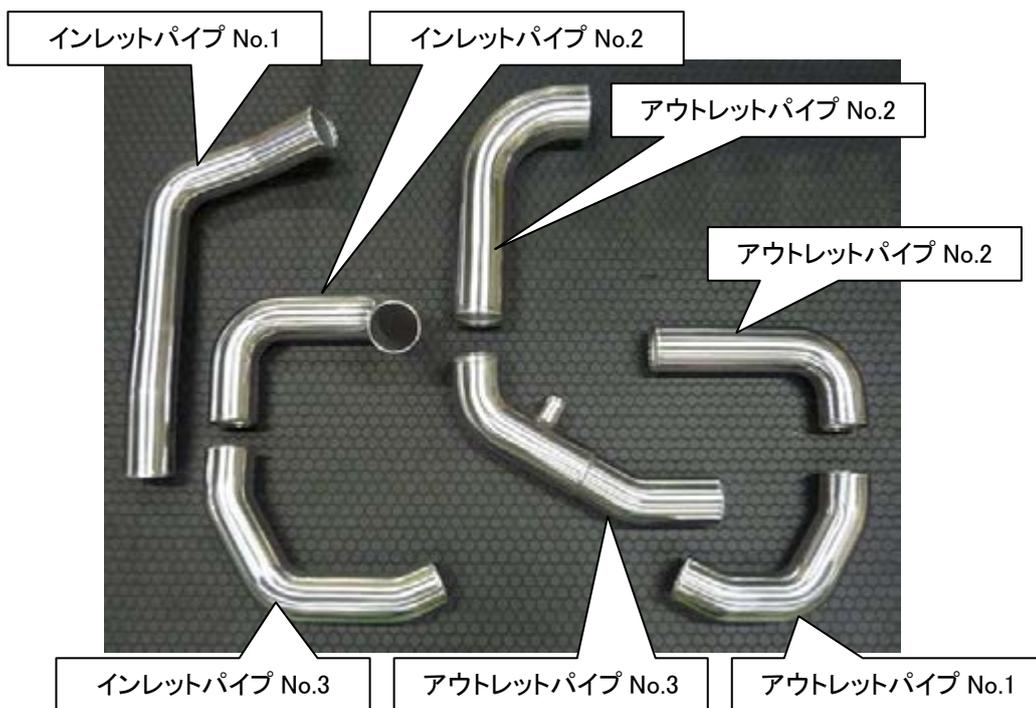


ホースを電動ファンのリブへ固定し、オイルタンクへ接続。この際、リザーブタンクと干渉するため、リブ側面に固定する。

○ホーン(左右)、スモッグセンサーを取付ける。



8. インタークーラーパイプの取付け



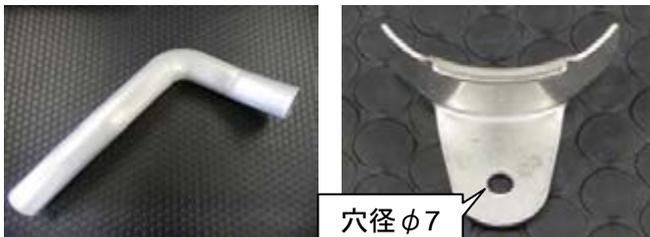
○パイプブラケット No.1 にインシュレーターラバーを取付ける。



- ・インシュレーターラバー
- ・リテーナー



○インレットパイプ No.1 にパイプブラケット(穴径φ7)を取付ける。



- ・インレットパイプ No.1
- ・パイプブラケット(穴径φ7)
- ・シリコンホース φ65 L=20
- ・ホースバンド#40



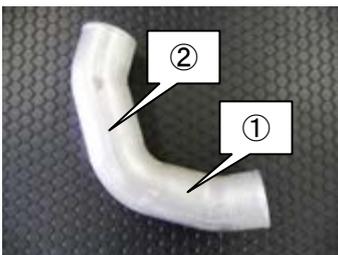
○インレットパイプ No.1 を仮付けする。

- ・シリコンホース φ60-65
- ・ホースバンド#40
- ・ホースバンド#36
- ・キャップボルト M6 L=30
- ・ワッシャ大径 M6
- ・フランジ付ナット M6



○インレットパイプ No.3 を仮付けする。

- ・ストレート部の長さ①と②を比較し、短い①の方をインタークーラー側に取り付ける。



- ・インレットパイプ No.3
- ・シリコンホース φ65 L=70
- ・ホースバンド #44 (2個)



パイプに傷がつかないように保護して取付を行う。

○パイプブラケットをフロントクロスメンバーに共締めする。



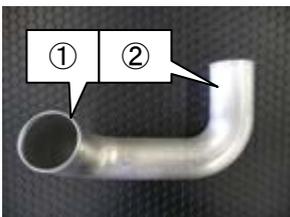
穴径φ12

- ・パイプブラケット(穴径φ12)



○インレットパイプ No.2 を仮付けする。

- ・ストレート部の長さ①と②を比較し、短い①の方をインタークーラー側に取り付ける。

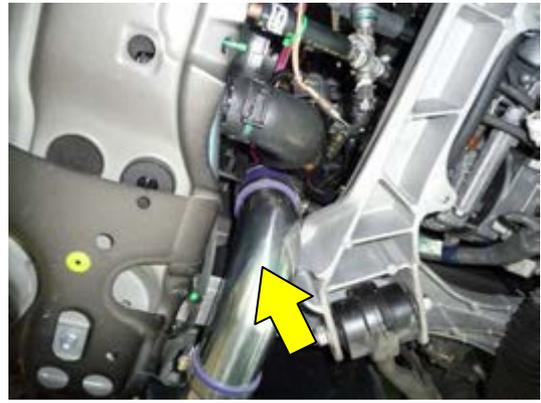


- ・インレットパイプ No.2
- ・シリコンホース φ65 L=70(2個)
- ・シリコンホース φ65 L=20
- ・ホースバンド#40 (5個)





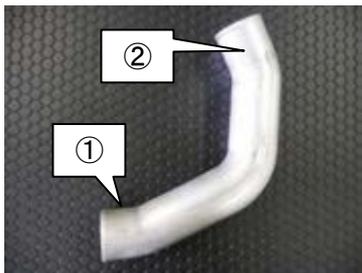
・シリコンホース φ65 L=20 を取付け、ホースバンド#40 でパイプブラケットに仮付けする。



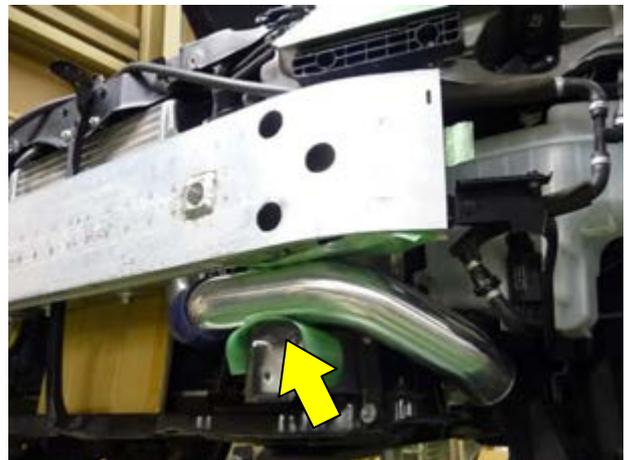
- アウトレットパイプ No.1 とリレーBOX から出たハーネスが干渉しないようにアウトレットパイプ No.1 の位置出しを行う。
- その他、各部干渉しないように位置出しを行い、仮付けしていたボルト・ナット、ホースバンドの本締めを行う。



- アウトレットパイプ No.1 を仮付けする。
 - ・ストレート部の長さ①と②を比較し、短い①の方をインタークーラー側に取り付ける。

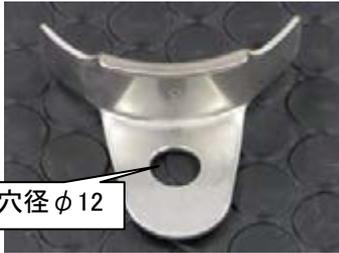


・アウトレットパイプ No.1
 ・シリコンホース φ65 L=70
 ・ホースバンド#44 (2 個)



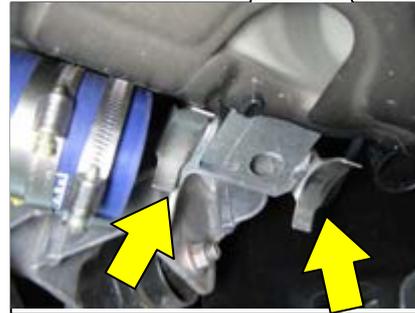
パイプに傷がつかないように保護して取付を行う。

○パイプブラケットをフロントクロスメンバーに
共締めする。



穴径φ12

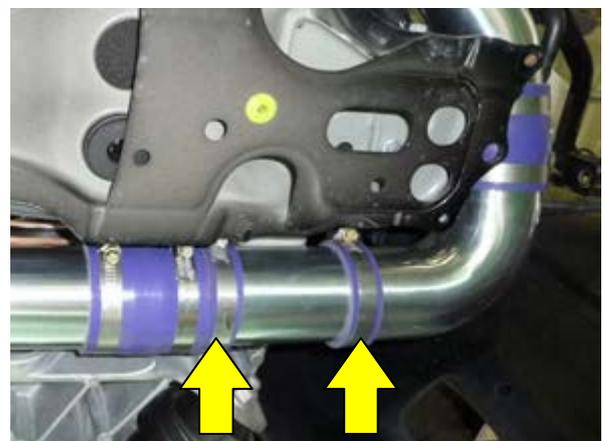
・パイプブラケット(穴径φ12) (2個)



○アウトレットパイプ No.2 を仮付けする。



・アウトレットパイプ No.2
・シリコンホース φ65 L=70
・シリコンホース φ65 L=20 (2個)
・ホースバンド#40 (4個)



シリコンホース φ65 L=20 を取付け、ホース
バンド#40 でパイプブラケットに仮付けする。

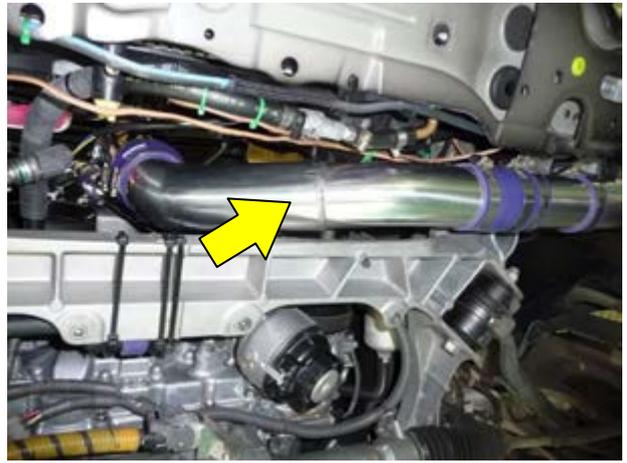
○アウトレットパイプ No.3 を仮付けする。

アドバイス

- ・パイプに傷がつかないように保護して取付を行う。



- ・アウトレットパイプ No.3
- ・シリコンホース φ65 L=70
- ・ホースバンド#40(2個)



○アウトレットパイプ No.4 を仮付けする。



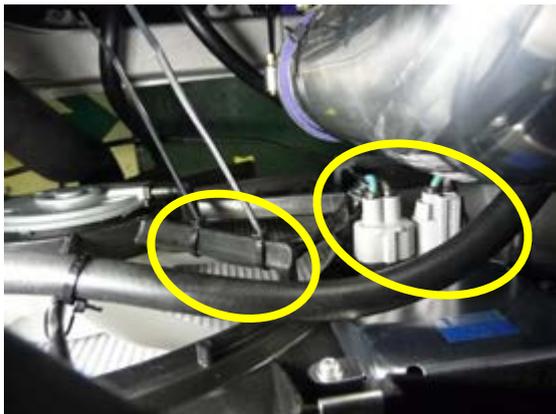
- ・アウトレットパイプ No.4
- ・シリコンホース φ70-φ80
- ・シリコンホース φ80 L=70
- ・ホースバンド#44
- ・ホースバンド#48 (2個)
- ・ホースバンド#56



○アウトレットパイプ No.4 と電動ファンのコネクタと干渉しないように位置出しを行う。

○電動ファンのハーネスを電動ファンのリブへ固定する。

- ・タイラップ(中)



○その他、各部干渉しないように位置出しを行い、仮付けしていたボルト・ナット、ホースバンドの本締めを行う。

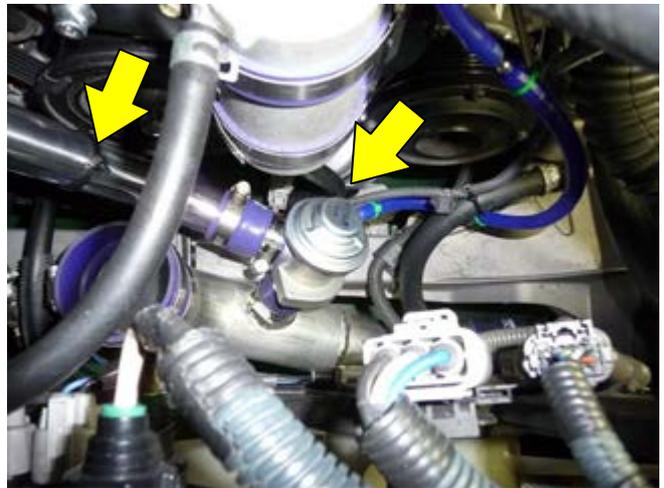
9. ブローオフバルブの取付け



○ブローオフバルブ、ブローオフパイプ No.2 を取付ける。



- ・ブローオフバルブ
- ・ブローオフパイプ No.2
- ・シリコンホース φ35 L=55 (2 個)
- ・ホースバンド#20 (4 個)



○ブローオフパイプ No.1 を取付ける。



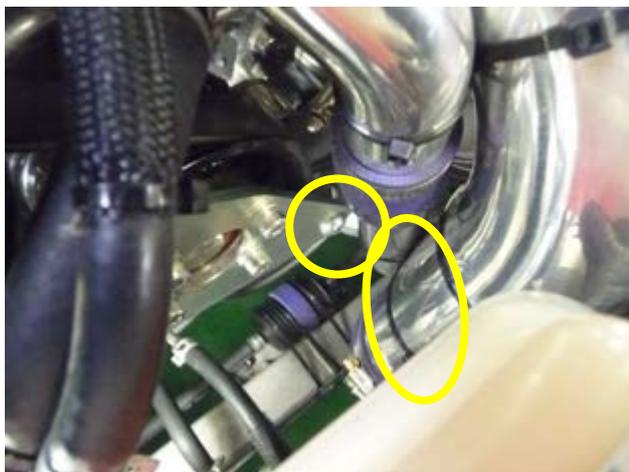
- ・ブローオフパイプ No.1
- ・シリコンホース φ35 L=55 (2 個)
- ・ホースバンド#20 (4 個)



○ブローオフパイプ No.1 がドライブプリーブラケット固定用のキャップボルト M10 と干渉しないように位置出しを行う。

○ブローオフパイプ No.2 をタイラップでアウトレットパイプ No.4 に固定する。

- ・タイラップ(大)



○トラクションフルードホースをアウトレットパイプ No.4
に固定する。

- ・タイラップ(大)
- ・タイラップ(中)

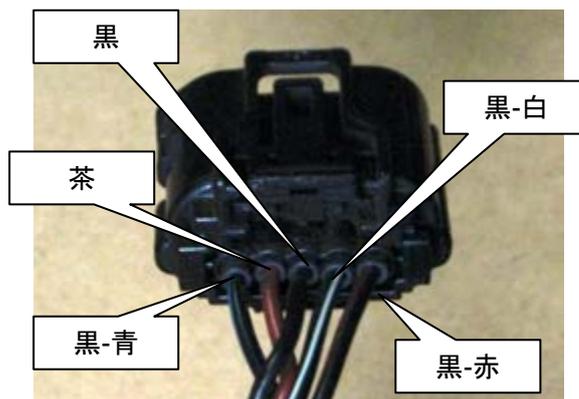


10. エアフロハーネス延長 ※ 左右バンク共同様に作業します

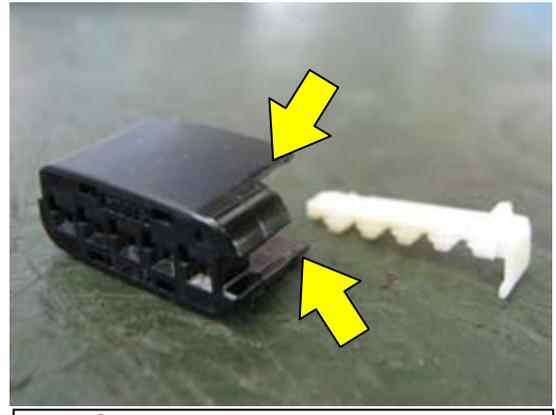
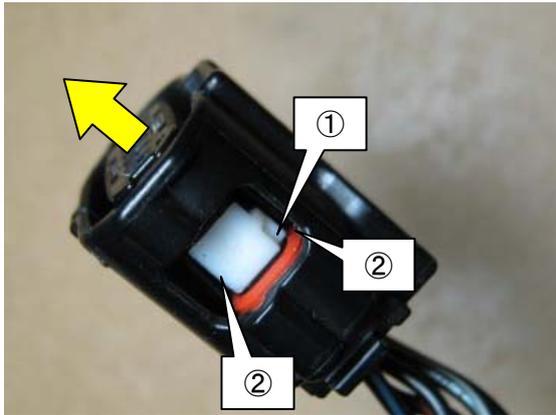
○エアフロハーネスの配線カバーを外す。



○純正ハーネスの色が端子差し込側から見て左から、
黒-青 → 茶 → 黒 → 黒-白 → 黒-赤
となっていることを確認する。
異なっている場合は、メモを取っておく。



- ①の穴に、小型の精密ドライバーを差し込み、リテーナー（白い樹脂部品）を手前側に取出す。
- ②の隙間両側ともに精密ドライバー（マイナス）等を差し込み、上下に押し広げながらフロントホルダーを取外す。



左図②の押し広げる部分

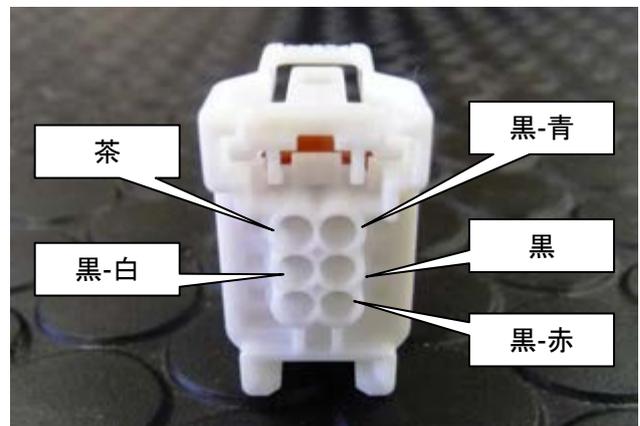
- 細い精密ドライバー（マイナス）等で端子のロックを上を持ち上げ、端子を引き抜く。



- 抜いた端子を6極コネクタに差し込む。



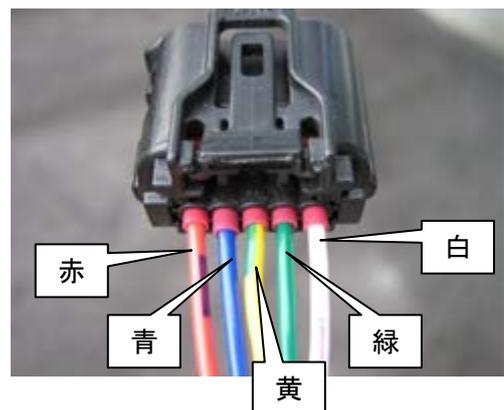
6極コネクタ



- エアフロ延長ハーネスの端子を純正エアフロコネクタに差し込む。



エアフロ延長ハーネス



○リテーナー、フロントホルダーを元に戻す。

○ハーネス部分をタイラップで固定する。

・タイラップ(大)

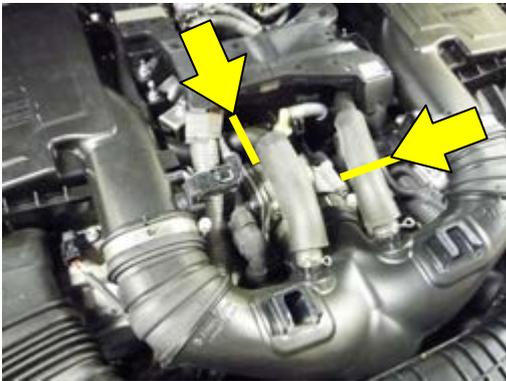


11. エア配管の加工・接続

【ブローバイリターン】

○図の破線の位置でブローバイホースを切断し、 $\phi 12$ ジョイントホースで接続する。

・ジョイントパイプ $\phi 12$
・タイラップ(中)

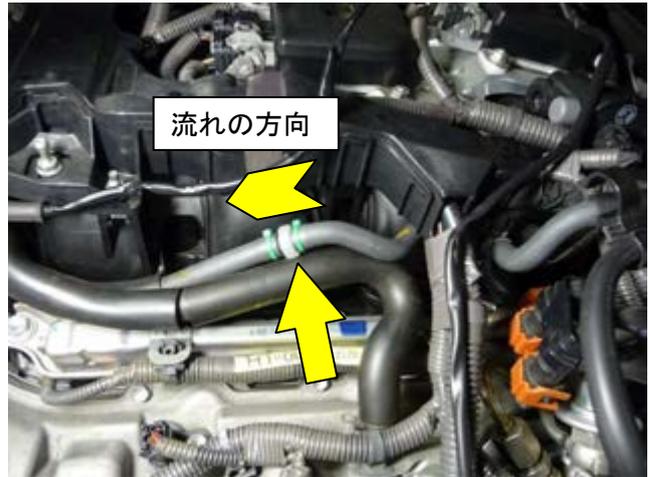


ノーマル状態



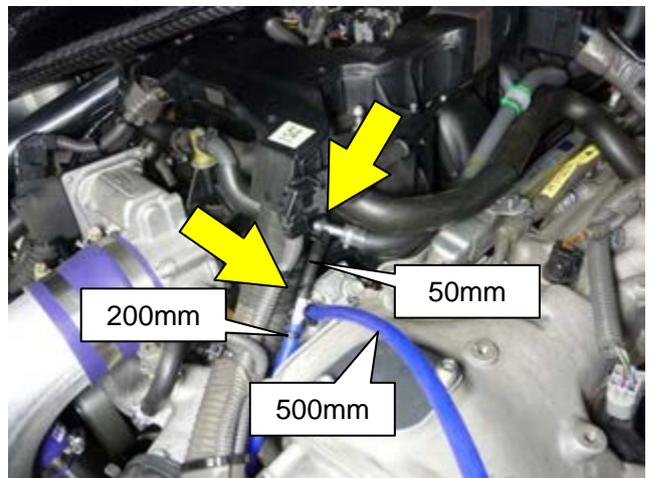
【バキューム配管取出し】

○キャニスタパージホースを切断し、ワンウェイバルブを取付ける。



【圧力センサー】

- ホースφ4を50mm切取る。
- キャニスタパージホースを切断し、スリーウェイφ8-φ4-φ8でホースφ4(50mm)を取付ける。
- ホースφ4を500mm切取る。
- スリーウェイφ4-φ4-φ4をホースφ4(50mm)に取付ける。
- ホースφ4(500mm)をスリーウェイφ4-φ4-φ4に取付ける。
- ホースφ4を200mm切取る。
- ホースφ4(200mm)をスリーウェイφ4-φ4-φ4に取付ける。



- ・スリーウェイφ8-φ4-φ8
- ・スリーウェイφ4-φ4-φ4
- ・ホースφ4
- ・タイラップ(小)

- ホースφ6とジョイントパイプφ4-φ6を圧力センサーに取付ける。
- ホースφ4を780mm切取り、ジョイントパイプφ4-φ6に取付ける。
- エアフィルターφ4をホースφ4に取付ける。

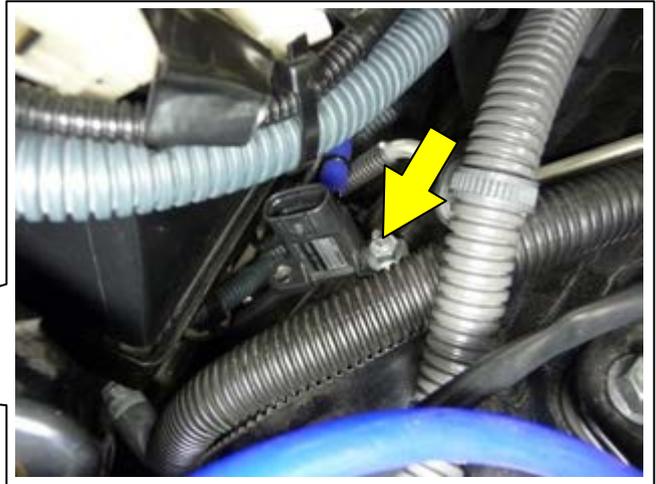


- ・圧力センサー
- ・ジョイントパイプφ4-φ6
- ・ホースφ6
- ・ホースクランプφ6(2個)
- ・ホースφ4
- ・エアフィルターφ4

○圧力センサーをハーネス固定ブラケットに共締めする。

○エアフィルターφ4をホースφ4(500mm)に接続する。

- ・フランジ付きナット M6
- ・タイラップ(小)



【ブローオフ作動配管】

○ホースφ6を425mmに切断し、ホースφ4(200mm)に取付ける。

○ホースφ6をエアコンホース、エンジンハーネスに固定する。

- ・ジョイントパイプφ4-φ6
- ・ホースφ6
- ・ホースクランプφ6(2個)
- ・タイラップ(小)
- ・タイラップ(中)
- ・タイラップ(大)

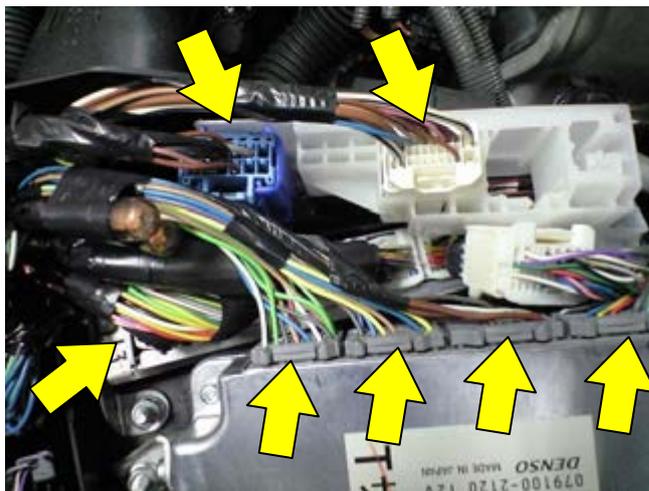


12. F - CON is の取付け

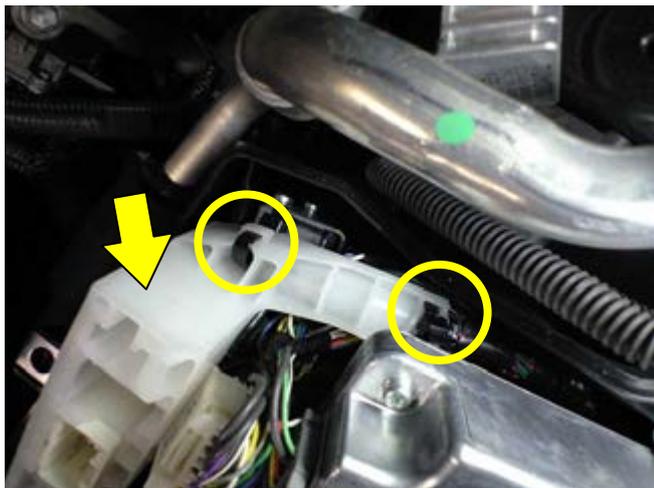
○ECU ボックス内の準備



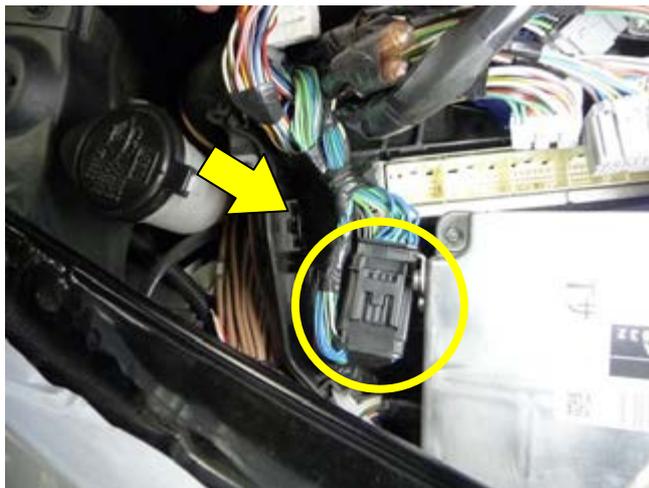
ECU のケースの蓋を取外す。



ECU コネクタ(6個)をケースから外す。
ECT コネクタ(4個)を外す。
中継コネクタ(2個)を白い樹脂ケースから外す。



タイラップ(2箇所)を切り、白い樹脂ケースを取外す。



コネクタをケースから外す。

OF-CON ハーネス(ECU 側)を取付ける。



・F-CON ハーネス(ECU 側)



F-CON ハーネスを取付後、ECT コネクタを取付ける。



(参考)ECT をはずした状態。



F-CON ハーネスは図の位置を通す。



VAC を両面テープで取付ける。



ハーネスが通るように加工して、ECU ボックスの蓋を取付ける。



○助手席側エントランスモールと足元左側の
サイドカバーを取外し、助手席足元のカーペットをめくる。



○OF-CON ハーネス (ECU 側) および圧力センサハーネスを
バッテリー横のグロメット部から車室内に引込む。



圧力センサハーネス

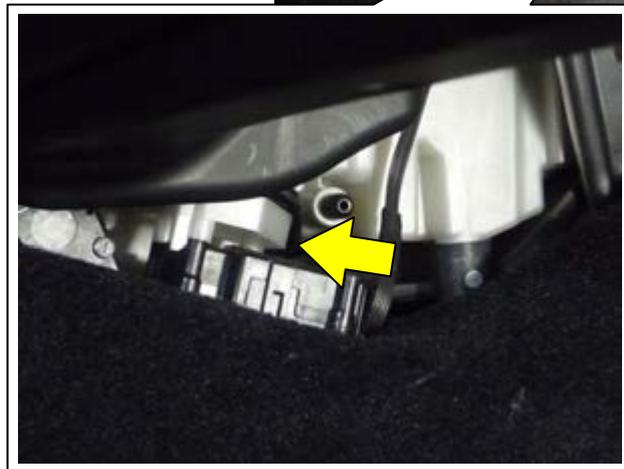


○センタートンネルとフロアユニットの隙間を運転席側から
助手席側に向かって F-CON iS 通信ケーブルの端子側
を通す。

○OF-CON iS 通信ケーブルの白線・茶線の端子を絶縁する。



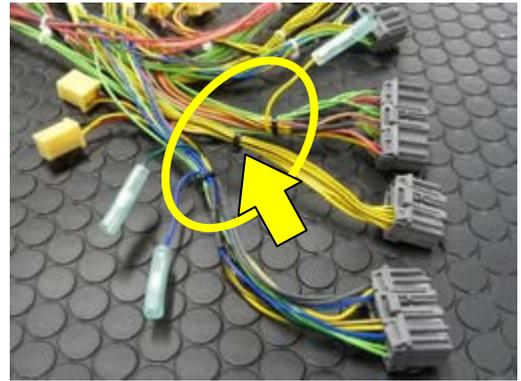
・F-CON iS 通信ケーブル



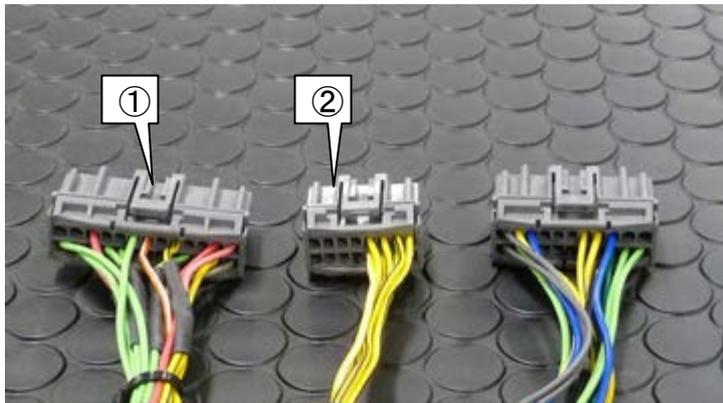
○黒のタイラップでまとめてある側の F-CON のコネクタに F-CON is 通信ケーブルと OSC ハーネスを接続する。



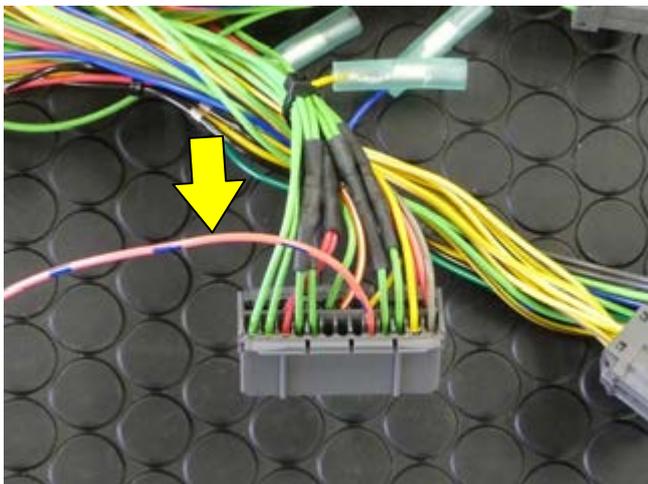
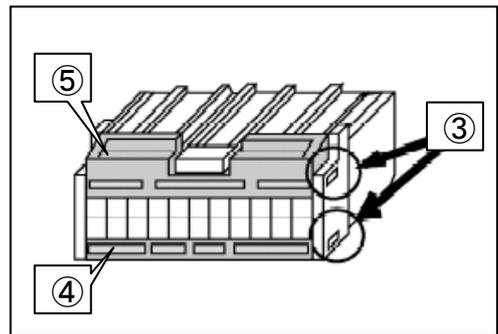
- ・F-CON ハーネス (F-CON 側)
- ・OSC ハーネス



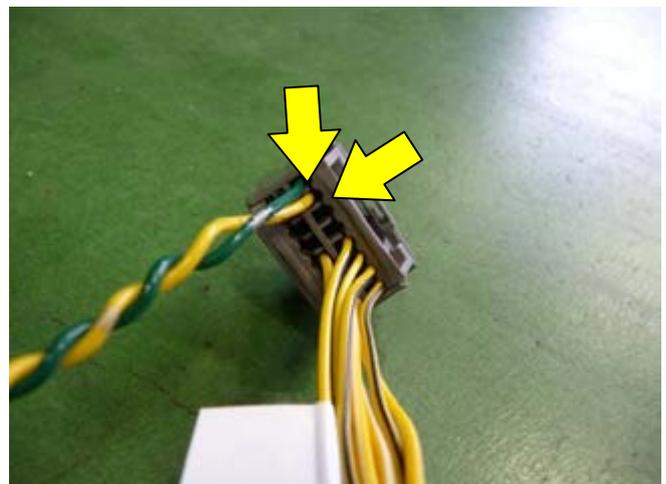
黒タイラップ取付け箇所



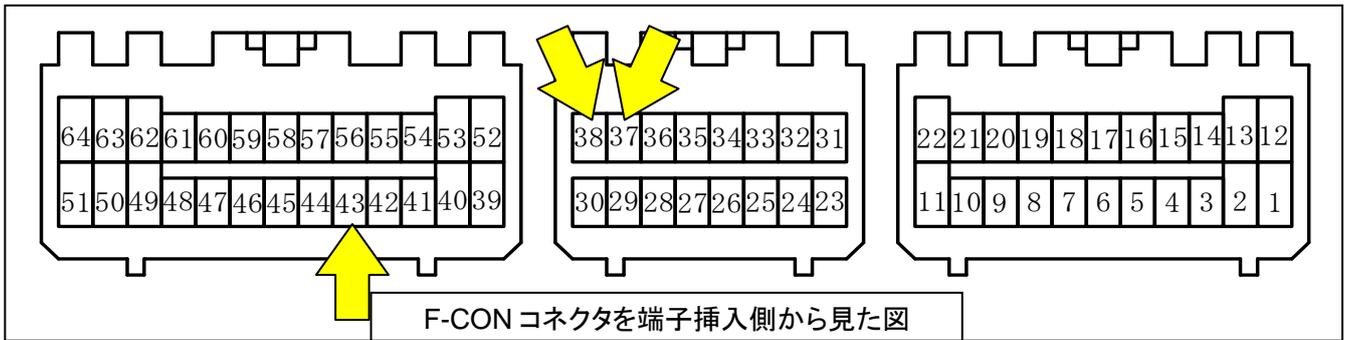
- ①のコネクタの左右のロック③を外し、④のカバーを上げる。
- ②のコネクタの左右のロック③を外し、⑤のカバーを上げる。



- ①のコネクタの 43 番ポートに OSC ハーネスの赤/青線を挿入する。
- ④のカバーをロックするまで押し込む。

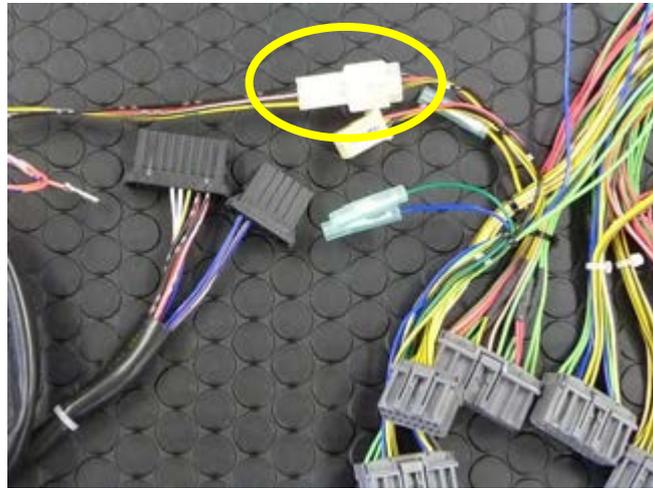


- ②のコネクタの 37 番ポートに黄色線、38 番ポートに緑線を挿入する。
- ⑤のカバーをロックするまで押し込む。



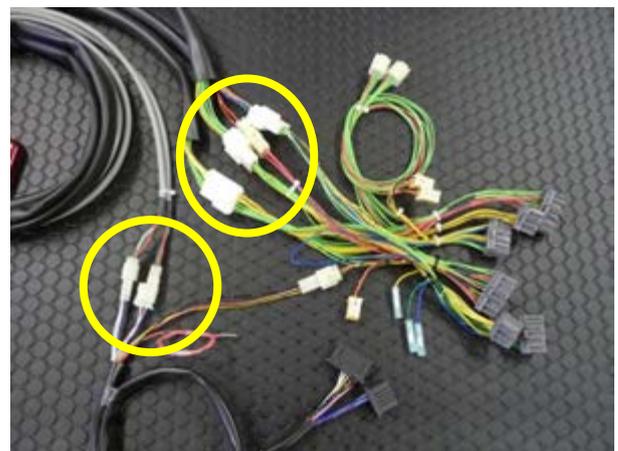
注意

・絶縁が不十分な場合、F-CON is ばかりでなく、車両側ヒューズ等を破損させてしまう可能性があります。また、接続箇所を誤ると F-CON is ばかりでなく、車両側ヒューズ等を破損させてしまう可能性があります。



OSC ハーネスのコネクタを F-CON ハーネス (F-CON 側) に接続する。

○OSC ハーネスを F-CON ハーネス (ECU 側) へ接続する。
○F-CON ハーネス (F-CON 側) を F-CON ハーネス (ECU 側) に接続する。

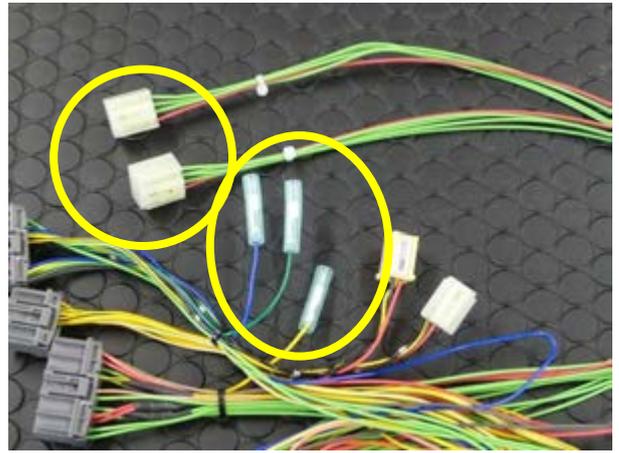


○圧力センサーハーネスのギボシを各々同色のギボシに接続する。

○INJ アダプタ(2個)をコネクタ(6極)に接続する。



・INJ アダプタ(2個)



○OF-CON iS 通信ケーブルのコネクタを車両の故障診断端子に接続する。



○OSC をハーネスに接続する

○OF-CON iS(2個)をハーネスに接続する。

○助手席足元の発泡スチロールボードを加工して F-CON iS/OSC/INJ アダプターを納める。



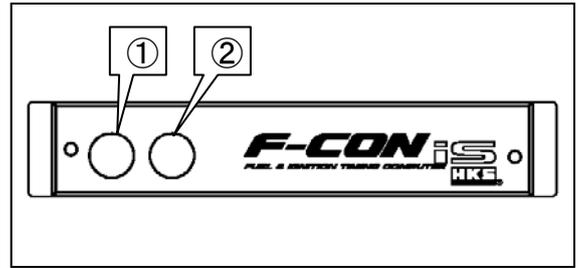
・F-CON iS (2個)
・OSC



《F-CON iS のデータをモニターする場合》

○車載テレビやモニターに F-CON iS のデータを表示させる場合には、**黒のタイラップ**でまとめてある側の F-CON ハーネスに接続した F-CON iS の、①の端子に映像出力用ケーブル、②の端子に付属の画面切り替えスイッチを接続する。

(映像出力用ケーブルは別途お買い求めください)、



※本製品で使用している F-CON iS では表示項目の変更はできません。

・表示項目はあらかじめ設定した次表の項目です。

<1ページ>		<2ページ>	
OBD A/F補正值1	バックラフ最小値 : -30.0[%] バックラフ最大値 : 30.0[%] 黄バ-設定値 : -10.0[%] 赤バ-設定値 : -20.0[%] 赤バ-位置設定 : 最小値側	エンジン回転数	バックラフ最小値 : 0[r/min] バックラフ最大値 : 8000[r/min] 黄バ-設定値 : 5000[r/min] 赤バ-設定値 : 7000[r/min] 赤バ-位置設定 : 最大値側
OBD A/F補正值2	バックラフ最小値 : -30.0[%] バックラフ最大値 : 30.0[%] 黄バ-設定値 : -10.0[%] 赤バ-設定値 : -20.0[%] 赤バ-位置設定 : 最小値側	吸気温	バックラフ最小値 : -20[°C] バックラフ最大値 : 130[°C] 黄バ-設定値 : 80[°C] 赤バ-設定値 : 90[°C] 赤バ-位置設定 : 最大値側
スロットル開度	バックラフ最小値 : 0[%] バックラフ最大値 : 100[%] 黄バ-設定値 : 80[%] 赤バ-設定値 : 90[%] 赤バ-位置設定 : 最大値側	圧力	バックラフ最小値 : 0.00[x100kPa] バックラフ最大値 : 2.00[x100kPa] 黄バ-設定値 : 1.80[x100kPa] 赤バ-設定値 : 2.00[x100kPa] 赤バ-位置設定 : 最大値側
OBD A/F学習値1	バックラフ最小値 : -30.0[%] バックラフ最大値 : 30.0[%] 黄バ-設定値 : -10.0[%] 赤バ-設定値 : -20.0[%] 赤バ-位置設定 : 最小値側	I770	バックラフ最小値 : 0[mV] バックラフ最大値 : 5000[mV] 黄バ-設定値 : 3000[mV] 赤バ-設定値 : 4000[mV] 赤バ-位置設定 : 最大値側
OBD A/F学習値2	バックラフ最小値 : -30.0[%] バックラフ最大値 : 30.0[%] 黄バ-設定値 : -10.0[%] 赤バ-設定値 : -20.0[%] 赤バ-位置設定 : 最小値側	水温	バックラフ最小値 : -20[°C] バックラフ最大値 : 120[°C] 黄バ-設定値 : 100[°C] 赤バ-設定値 : 105[°C] 赤バ-位置設定 : 最大値側
A/F	バックラフ最小値 : 8.0 バックラフ最大値 : 20.0 黄バ-設定値 : 16.0 赤バ-設定値 : 18.0 赤バ-位置設定 : 最大値側	スロットル開度	バックラフ最小値 : 0[%] バックラフ最大値 : 100[%] 黄バ-設定値 : 70[%] 赤バ-設定値 : 90[%] 赤バ-位置設定 : 最大値側
<3ページ>			
エンジン回転数	バックラフ最小値 : 0[r/min] バックラフ最大値 : 8000[r/min] 黄バ-設定値 : 5000[r/min] 赤バ-設定値 : 7000[r/min] 赤バ-位置設定 : 最大値側		
電源電圧	バックラフ最小値 : 0.0[V] バックラフ最大値 : 16.0[V] 黄バ-設定値 : 13.0[V] 赤バ-設定値 : 12.0[V] 赤バ-位置設定 : 最小値側		
圧力	バックラフ最小値 : 0.00[x100kPa] バックラフ最大値 : 3.00[x100kPa] 黄バ-設定値 : 1.60[x100kPa] 赤バ-設定値 : 1.80[x100kPa] 赤バ-位置設定 : 最大値側		
スロットル開度	バックラフ最小値 : 0[%] バックラフ最大値 : 100[%] 黄バ-設定値 : 80[%] 赤バ-設定値 : 90[%] 赤バ-位置設定 : 最大値側		
水温	バックラフ最小値 : -20[°C] バックラフ最大値 : 130[°C] 黄バ-設定値 : 100[°C] 赤バ-設定値 : 105[°C] 赤バ-位置設定 : 最大値側		
車速	バックラフ最小値 : 0[km/h] バックラフ最大値 : 320[km/h] 黄バ-設定値 : 320[km/h] 赤バ-設定値 : 320[km/h] 赤バ-位置設定 : 最大値側		

《CAMP2 と併用する場合》

CAMP2 の取扱説明書10ページ・11ページ〈故障診断コネクタがない車両、又は車両の故障診断コネクタを使用しない場合〉を御参照いただき、取付けを行ってください。

・F-CON 接続用ケーブル又は市販の 6 極 4 芯ストレートモジュラーケーブルは別途、御用意ください。

○助手席側エントランスモールと足元左側のサイドカバーを元に戻す。

アドバイス

・サイドカバー取付け時、F-CON ハーネスを挟まないように確認しながら取付を行う。

○圧力センサハーネスのコネクターを接続する。

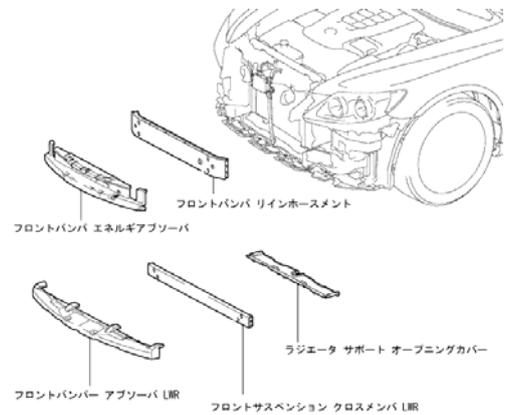
○バッテリーを取付ける。

※端子はまだ接続しない



13. ノーマルパーツの取付け

○バンパーレインフォースを取付ける。

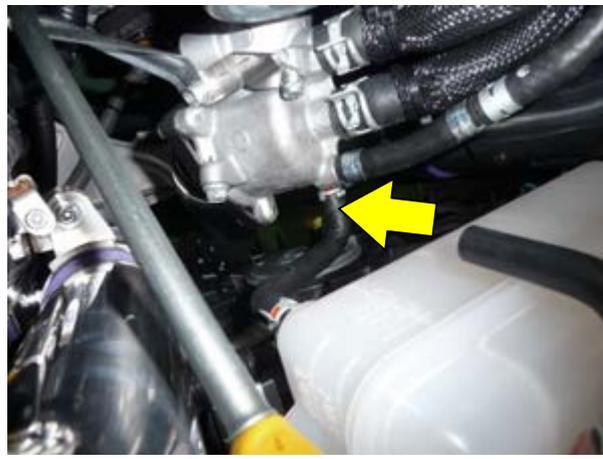


○フロントバンパーを取付ける。

アドバイス

・フォグランプのステーがフォグランプと干渉してフォグランプが破損しないように注意する。

○純正ホースφ8を30mm切取り、サーモハウジングに取付ける。



○ラジエーターザーブタンクを取付ける。

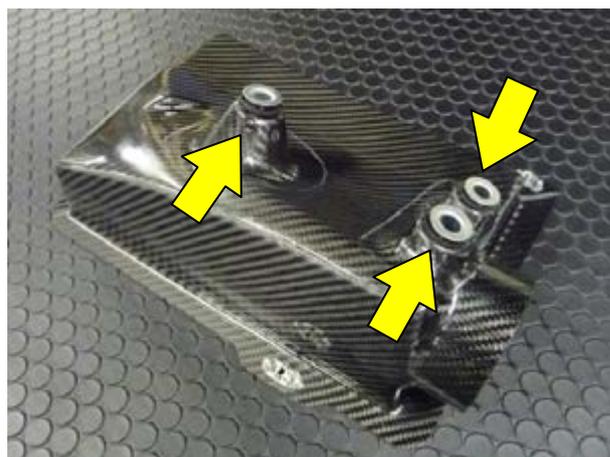
14. エアクリーナーボックスの取付け



○エアクリーナーボックス(下側)にマウンティングラバーを取付ける。

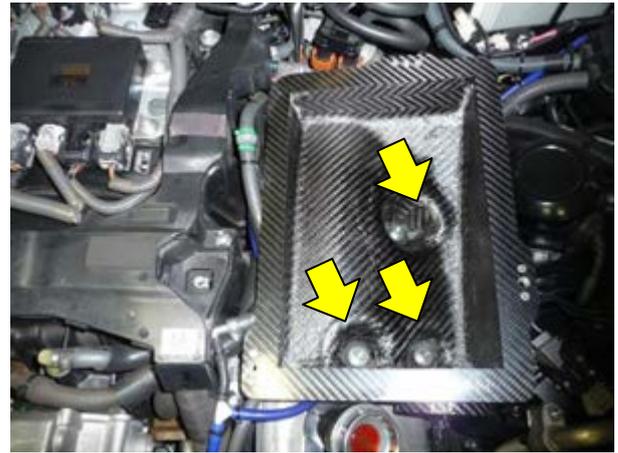


- ・エアクリーナーボックス(下側)
- ・マウンティングラバー(3個)
- ・リテーナー(3個)



○エアクリーナボックス(下側)を取付ける。

- ・キャップボルト M6 L=25 (3 個)
- ・ワッシャ M6 大径 (3 個)



○エアクリーナボックス(上側)にエアフローセンサー(2個)を取付ける。



- ・エアクリーナボックス(上側)
- ・キャップボルト M4 L=15 (4 個)
- ・スペーサー D=10 d=4 t=5 (4 個)
- ・ワッシャ M4 (4 個)



○純正エアクリーナをエアクリーナボックス(下側)に取付ける。

○エアクリーナボックス(上側)を取付ける。

- ・シリコンホース ϕ 70 L=55
- ・ホースバンド #44 (2 個)
- ・ボタンボルト M5 L=15 (3 個)

○エアフロセンサーハーネスを取り回す。

○エアフロセンサーのコネクタを接続する。

- ・右バンク側のコネクタは右バンク側のセンサーへ、左バンク側のコネクタは左バンク側のセンサーへ接続する。



注意

- ・コネクタを左右逆に接続した場合、燃料噴射制御に不具合が生じ、エンジンが破損する可能性があります。

15. トラクションフルードの注入とエンジン冷却水の注入

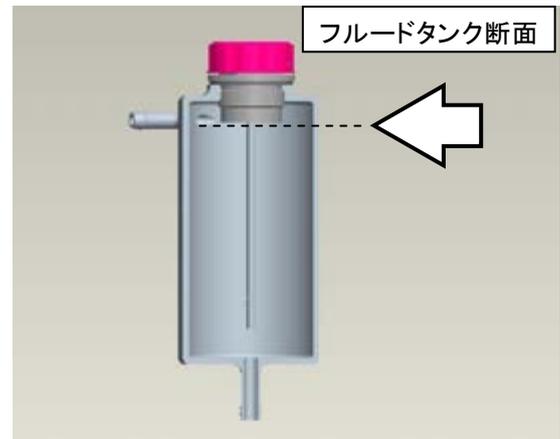


・トラクションフルード

アドバイス

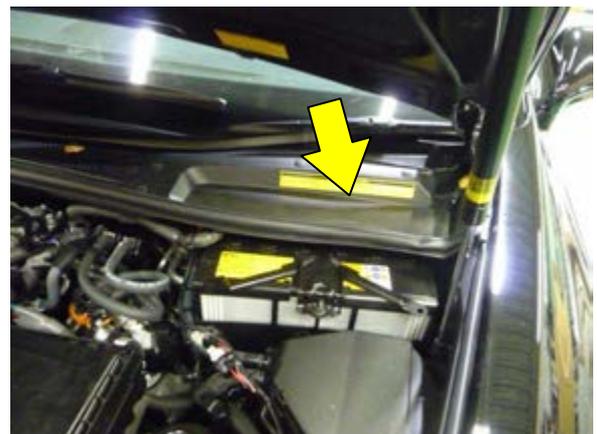
・スーパーチャージャーAssy の内部構成部品は精密部品です。トラクションフルードに異物が混入するとスーパーチャージャーAssy が破損します。トラクションフルード配管の作業中ホースやタンクに異物が混入しないように作業を行なってください。

- トラクションフルードタンク内に異物が無い事を確認する。
- 図中矢印のオイルタンク内のリターンパイプ下面まで、トラクションフルード(約 450cc)を注入し、キャップを閉める。



- エンジン冷却水を5L 準備する。
- リザーブタンクに記載されたエンジン冷却水の注入方法を参照し、エンジン冷却水をリザーブタンクへ注入する。

- バッテリーの+端子、-端子を接続する。
- カウルトップベンチレータールーバーLHを取付ける。



16. エンジン始動確認とトラクションフルード量の調整

○エンジン始動前に下記の事項を確認する。

	確認項目	確認
1	トラクションオイル配管が正しく行われているか。	
2	ハーネス及び取付けた部品が各部に干渉していないか。	
3	各ハーネスを強くはさんでいないか。	
4	F-CON+VAC ハーネスの使用していないオプション機器接続コネクタは開放されているか。	
5	プーリーの取付けボルトおよび固定ボルトが確実に締めてあるか。	
6	ベルトがプーリーの溝にしっかり合っているか。	
7	トラクションフルードがフルードタンク内リターンパイプ下面まであるか。	
8	パイプ・ホース類の配管が間違っていないか。	
9	ホースにねじれや過度の曲げがないか。	
10	ホースバンドが確実に締まっているか。	
11	ボルト・ナット類が確実にしまっているか。	
12	取付けた部品がしっかりと固定されているか。	
13	バッテリーのマイナス端子にケーブルターミナルが確実に取付けられているか。	
14	エンジンオイルがレベルゲージのH~Lの間にあるか。	
15		

※専用 F-CON iS は設定およびデータ入力済み。

○トラクションフルードをビーカー等に約 130cc 準備しておき、フルードタンクのキャップを外してエンジンを始動する。

○エンジン始動直後、下記の作業を実施する。

1. フルードタンク内のフルードレベルが下がり始め、フルードタンクにトラクションフルードが戻ってくる事を確認する。
2. フルードタンク内のフルードが無くならないよう、無くなる前にビーカー等に準備したトラクションフルードを継ぎ足す。その際、フルードタンクからあふれないようにする。

※ バッテリー端子接続後、1 回目の始動時はエンストしますが、異常ではありません。

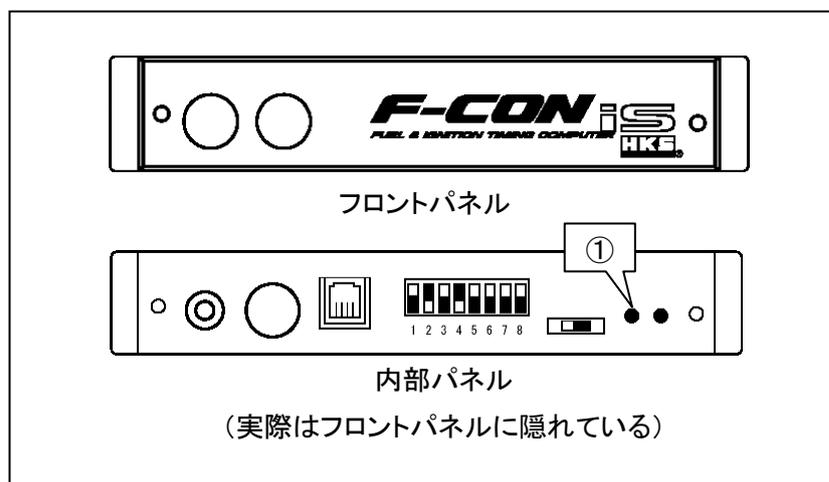
※ エンジン始動直後、暖気中に GT スーパーチャージャーから“ジャラジャラ”といった作動音が出ます。これはトラクションフルードが暖まる約2~3分後に聞こえなくなるものであり、異常ではありません。

○エンジン暖気後に下記の事項を確認する。

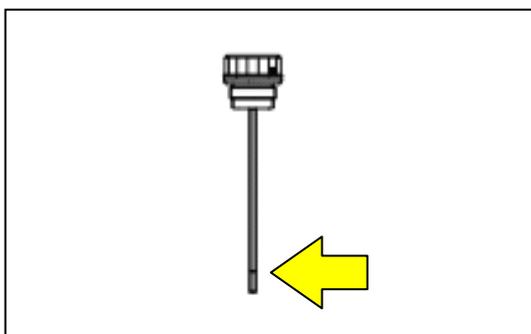
アドバイス

- ・暖気中はエンジンの回転を上げないようにする。(アイドリング運転)

	確認項目	確認
1	フルードタンクにトラクションオイルが戻っているか。	
2	専用 F-CON iS の パワーLED(グリーン)は点灯しているか。(下図①参照)	
3	各部から、トラクションフルード、冷却水、エアが漏れていないか。	
4	ハーネス、ホース類が引っ張られていないか。	
5	部品による干渉音が無いか。	



○上記項目に異常が無いことを確認した後、エンジン回転数を10秒間 2000rpm に維持し、速やかにエンジンを停止して、トラクションフルードがレベルゲージのマーキングまでであるか確認し、過不足を調整する。



※残ったトラクションオイルは、トラクションフルードが入っていた容器でキャップをして保存してください。

トラクションフルードは特殊な成分により構成されているため、他の容器で保存した場合、成分の変化や容器を侵す場合があります。

○フルードタンクのキャップを閉める。

○リザーブタンクに記載されたエンジン冷却水の注入方法を参照し、エンジン冷却水のエア抜きを行う。

17. ベルト張力の調整

○エンジン始動確認後、ベルト張力を調整する。

ベルト張力は図の位置で測定する。

張力計の設定

スパン長 : 230mm

リブ数 : 7

ベルト比重 : 0.0188g/(1リブ×1m長さ)

張力 : 960N



18. エアクリーナダクトの取付け

○エンジンルームカバー(前)を取付ける。



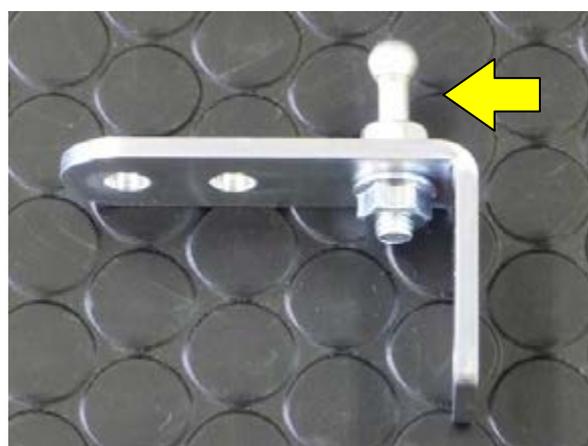
・エンジンルームカバー(前)



○ エンジンカバーブラケットにマウンティングボルトを取付ける。



・エンジンカバーブラケット
・マウンティングボルト(再使用)
・フランジ付きナット M6



- エアクリーナーダクトにエンジンカバーブラケットを取付ける。



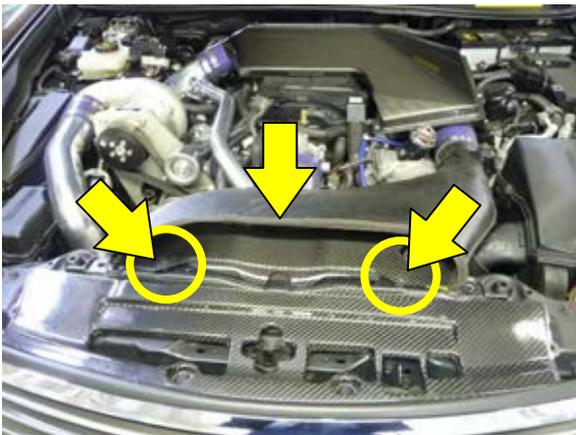
- ・エアクリーナーダクト
- ・タイラップ(大)
- ・スポンジシート 30×30×t3
(1/2 に切って使用)



ダクト側にスポンジシートを貼り、エンジンカバーブラケットを取付ける。

- エアクリーナーダクトを取付ける。

- ・シリコンホースφ80 L=70
- ・ホースバンド#48
- ・ボルト M6(再使用 2個)



シリコンホースφ80はダクト側のみ、ホースバンド#48で固定する。

- アンダーカバー(3個)を取付ける。

19. 取付後の確認

○車両をリフトから降ろす。

アドバイス

- ・リフトから降す際、エアサスのエアが抜け、最低位置まで車高が下がる。最低位置まで車高が下がった場合にタイヤがフェンダーに干渉しないことを確認しながら、リフトから降す。
数分後にはエアが蓄積されて車高は標準車高にもどる。

○バックガイドモニターの設定をする。

方法

1. ステアリングホイールを右いっぱいにする。
 2. ステアリングホイールを左いっぱいにする。
- 設定が完了すると、バックモニターに予想進路が表示される。

○エンジン冷却水のエア抜きを十分に行う。

○エアコンのヒーターが機能していることを確認する。

○再度ベルト張力を調整する。

20. エンジンカバー・エンジンルームカバーの取付け

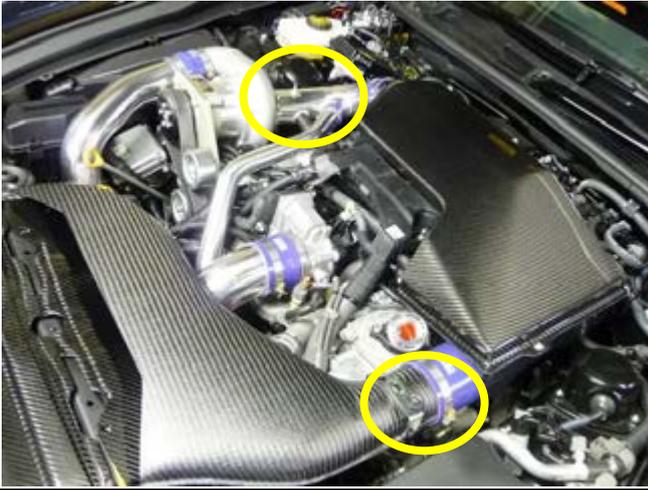
○エンジンカバーを取付ける。



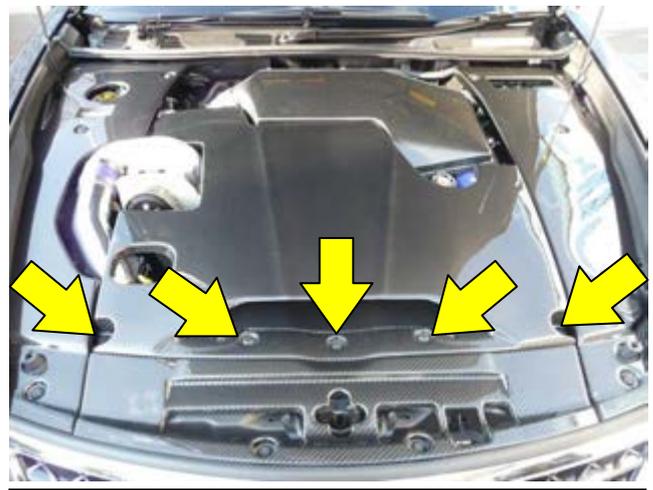
・エンジンカバー
・クリップ（再使用 5 個）



純正エンジンカバーから取外したマウンティングラバーをエンジンカバー裏側のブラケットに取付ける(2箇所)



マウンティングラバーをマウンティングボルトに挿入し、エンジンカバーを取付ける。



・クリップ (再使用 5個)

アドバイス

- ・エンジンカバーを取外す場合は、マウンティングラバーを直接持ち上げて下さい。エンジンカバーを持ち上げると破損する場合があります。



○エンジンルームカバー(左)・(右)を取付ける。



- ・エンジンルームカバー(左)
- ・エンジンルームカバー(右)
- ・クリップ (再使用 8個)



以上で作業は終了です。

21. 1ヶ月点検の実施

○本製品を取付けてから1ヶ月後(40日以内)に添付の1ヶ月点検記録用紙に従い、下記の点検を実施してください。

○本点検により不具合が無いことを確認してください。

記入方法 異常なし 交換 調整 A 締付け T

点検項目	
1	<p><u>スーパーチャージャー本体の確認</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  <p>警告</p> <p>・作動音確認の際はベルトに手や指、衣服等が巻き込まれないようにしてください。 ・ベルトに巻き込まれた場合重症を負う可能性があります。</p> </div>
	取付け時と比較してGTスーパーチャージャー駆動機構の作動音が大きくなっていたり、異音が発生していないか <input type="checkbox"/>
	取付け時と比較してエアクリーナからの吸気音が大きくなっていたり、異音が発生していないか <input type="checkbox"/>
	トラクションフルードが異常に減少していないか(フルードレベルゲージにフルード液面が触れない程度まで) <input type="checkbox"/>
2	<u>トラクションフルード配管の点検</u>
	トラクションフルード配管からの漏れ、ホースクランプの緩みがないか <input type="checkbox"/>
	確認箇所
	・スーパーチャージャーとの接続部 <input type="checkbox"/>
	・フルードクーラーとの接続部 <input type="checkbox"/>
	・フルードタンクとの接続部 <input type="checkbox"/>
	・フルードフィルターとの接続部 <input type="checkbox"/>
トラクションフルードホースに他部品との接触による損傷がないか <input type="checkbox"/>	
トラクションフルードホースにひび、割れなどが生じていないか <input type="checkbox"/>	
トラクションフルードがレベルゲージのマーキングレベルまでであるか <input type="checkbox"/>	
3	<u>ベルトの点検</u>
	ベルトがオートテンショナーの調整範囲内になっているか(6PK2135) <input type="checkbox"/>
	ベルトが指定の張力になっているか(7PK1030 960N) <input type="checkbox"/>
ベルトにひび、割れ、欠けなどの損傷がないか <input type="checkbox"/>	
4	<u>ボルトの締付け</u>
	GTスーパーチャージャーの取付けボルトが締まっているか <input type="checkbox"/>
	プーリーの取付けボルトが確実に締まっているか <input type="checkbox"/>

5	その他	
	ハーネス類が各部に干渉していないか	<input type="checkbox"/>
	確認箇所	
	・圧力センサハーネス	<input type="checkbox"/>
	・F-CONハーネス	<input type="checkbox"/>
	取付けた部品が各部に干渉していないか	<input type="checkbox"/>
	確認箇所	
	・インタークーラーインレットパイプ No.1 とリレーBOXハーネス	<input type="checkbox"/>
	・ブローオフバルブパイプとウォーターポンププーリーブラケットの取付ボルトの頭(キャップボルトM10)	<input type="checkbox"/>
	・インタークーラーアウトレットパイプ No.4 と電動ファンハーネス	<input type="checkbox"/>
・インタークーラーアウトレットパイプ No.4 とリザーブタンク配管	<input type="checkbox"/>	
ホースバンドが確実に締まっているか	<input type="checkbox"/>	
エンジンオイルがレベルゲージのH~Lの間にあるか	<input type="checkbox"/>	

22. 維持・管理

○トラクションフルードは HKS GT スーパーチャージャー専用品です。弊社指定のトラクションフルード以外は絶対に使用しないでください。弊社指定以外のトラクションフルードや、エンジンオイル、ミッションオイル等を使用した場合、HKS GT スーパーチャージャーの内部部品が破損します。



注意

- トラクションフルードは交換不要ですが、運行前には油量の確認を行い、減少している場合にはトラクションフルードを補充してください。

○補充用のトラクションフルードは下記品番にて注文してください。

商品名	品番
トラクションフルード	12002-AK029

○HKS GT スーパーチャージャー取付後、5年経過または走行距離が70,000kmを超えた場合はトラクションフルードのフィルターを交換してください。

- ・トラクションフルードのフィルターは下記品番にて注文してください。

商品名	品番
トラクションフルードフィルタ	12002-AK015

○リブベルトは消耗部品です。運行前点検時にひび、割れ、欠けなどの損傷がないか確認してください。損傷がある場合には交換してください。

- ・交換用のベルトは下記品番にて注文してください。

商品名	品番
ベルト 7PK1030	G13572-T63010-00
ベルト 6PK2135	G13572-T63020-00

23. 故障と判断する前に

○本製品が正常に作動しない場合には、故障と判断する前に、下記の症状と照らし合わせて、配線・ベルト等の確認をしてください。

症状	原因	確認事項・対策
<ul style="list-style-type: none"> ・イグニッションキーを ON にしても専用 F-CON is のパワー LED が点灯しない ・エンジンが始動しない ・エンジン不調 	コネクタ接触不良	<ul style="list-style-type: none"> ・各コネクタを隙間のないように確実に接続する
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン始動時にベルトが鳴く ・エンジン出力が低下したように感じる ・全開加速時、エンジン回転が上昇しても、ある回転数から過給圧が低下する 	ベルト張力低下	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルト 6PK2153: オートテンショナーの調整代を使い切っていないか確認。使い切っている場合は新品に交換 ・ベルト 7PK1030: ベルトが指定の張力になっているか確認。(960N)
<ul style="list-style-type: none"> ・エンジン出力が低下したように感じる ・全開加速時、エンジン回転が上昇しても、ある回転数から過給圧が低下する 	エアクリーナの寿命	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れが目立つ場合には交換時期に達していても交換 ・走行距離が 10,000km を超えている場合は交換 (使用状況により 10,000km 以下でも交換)
<ul style="list-style-type: none"> ・オートマチックトランスミッションの変速不調 	コネクタ接触不良 アース不良	<ul style="list-style-type: none"> ・各コネクタを隙間のないように確実に接続する ・F-CON+VAC ハーネスの黒線クワ型端子アースを確実に接続する
	ファイナルギヤの変更	<ul style="list-style-type: none"> ・ファイナルギヤをノーマル以外のものに変更されている場合、AT制御とエンジン制御の組み合わせにズレが生じ、変速時のショックが大きくなったり、変速時にタイムラグが生じるといった現象が起きる。 対策: ノーマルのファイナルギヤに戻す。
<ul style="list-style-type: none"> ・空ぶかしでエンジンを高回転まで回すと、ベルトが鳴く。 	※本症状のみでは異常と判断できません。)	<ul style="list-style-type: none"> ・走行時にある回転数から過給圧が低下するような症状が出ていなければ、異常ではありません。 ・空ぶかし時はエンジンの回転上昇が速いため、ベルトが滑りやすい状況です。特に冷間時はベルト張力が低く、さらにベルトが滑りやすい状況にあります。

24. ベルトが切れてしまった場合

- ・車両を安全な場所へ移動し、切れたベルトによる他部品の損傷(オイル、冷却水配管、ハーネス等の破損)がないか確認してください。
- ・ベルト 6PK2135 が切れた場合、ベルトでウォーターポンプを駆動しているため、ベルトが切れた場合は走行しないでください。
- ・ベルトが切れた原因を確認し、問題がなければ新品のベルトに交換してください。問題が発見された場合には適切な修理を行なってください。